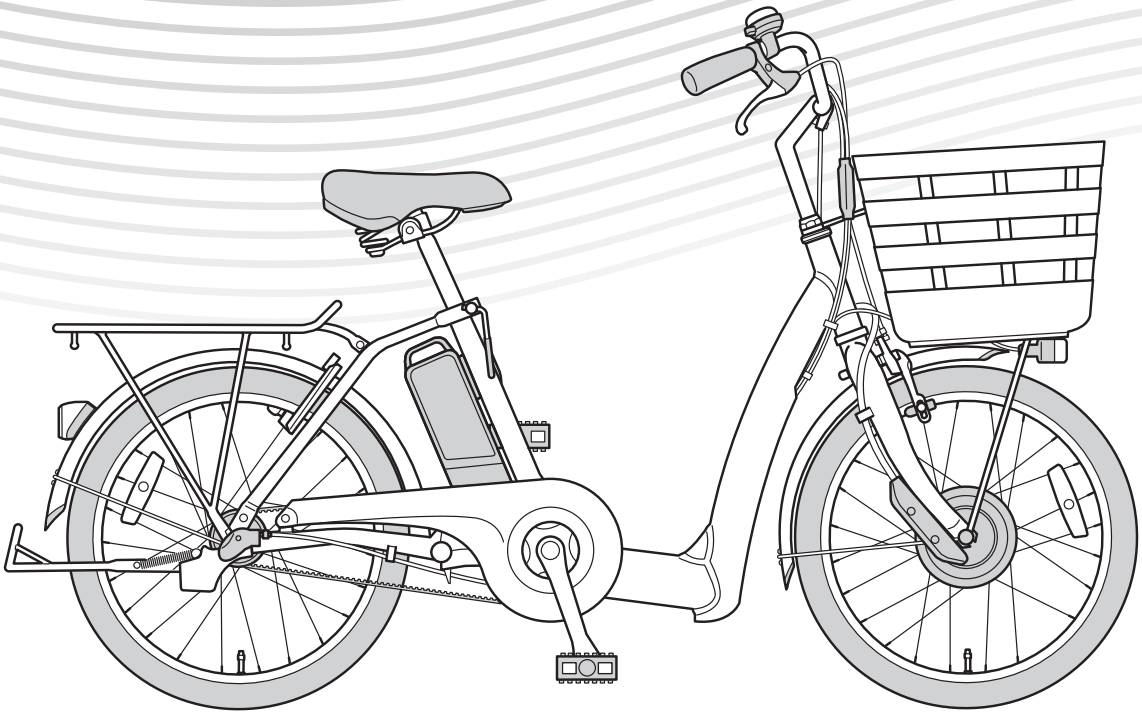
BRIDGESTONE

取扱説明書
（電動アシスト自転車編）

お願い

- 納車時に販売店から、電動アシスト自転車の使用方法について充分に説明を受けてください。
- 本書／点検・整備の記録と保証書は、紛失しないよう大切に保管し、ご活用ください。
- 盗難補償には加入手続きが必要です。盗難補償書に記載の期日までにホームページからオンライン登録するか、またはロビンフッド手帳（保証書・盗難補償書）に記載のQRコードから携帯電話でオンライン登録する。またはロビンフッド手帳のブリヂストンサイクル盗難補償カード（ハガキ）に必要事項を記入の上、投函してください。
- 電動アシスト自転車を他の人にお譲りになる場合は、取扱説明書も一緒にお渡しください。
- 保証書は「販売店名、お買い上げ日」などの記入を確かめて販売店からお受け取りください。記入がもれている場合は、販売店にご請求ください。
- お求めになった電動アシスト自転車にあてはまらない内容も含まれますのでご容赦ください。
- 取り扱いがわからないときは、お買い上げの販売店にご相談ください。



自転車のイラストは代表例です

この自転車は一般用として設計されています。新聞配達などの業務用としてご使用にならないようお願いします。

もくじ

はじめに

前書き……4

安全のために

電動アシスト自転車を安全に使用するために…5
自転車を安全に乗るために……7
バッテリーや充電器を使うとき……15
自転車の交通ルールについて……19

電動アシスト自転車について

電動アシスト自転車のしくみ……21
各部の名称……22

バッテリーについて

バッテリーの特徴……23
バッテリーの交換について……24

充電しましょう

充電モードについて
（B400バッテリーのみ）……26
充電に適した環境……28
バッテリーの脱着……29
充電のしかた……31
充電状態の見かた……32
充電時間の目安……33

乗る前に

乗車前点検……34
バッテリー残量の確認……39
走行モードについて……42

乗りましょう

発進のしかた……46
変速のしかた……49
グリップ式ベルの使い方
（グリップ式ベル装着車のみ）……51
前照灯について……52
メインスイッチの表示機能……54
回復充電機能について……55
スリップ制御機能について……62
自動点滅ソーラーテールライトの
取り扱い……63
荷物の積載……65
アシストが作動しない環境……67
駐輪のしかた……68
後輪錠の使いかた……70
カーボンソリッドドライブについて……71

お手入れと保管

お手入れのしかた……73
保管のしかた……77

ごぞんじですか？

もしもこんなときは……79
定期点検／
普通自転車点検整備済みTSマーク…91
保証制度／基準適合標章（TSマーク）…92
BAAマーク……94
防犯登録／盗難補償／保険について……96
スペアキーについて……97
点検・整備の記録……98

前書き

このたびは、当社の電動アシスト自転車をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。
電動アシスト自転車は、自転車に乗れる方でしたら手軽にお乗りいただくことが可能です。
ただし、普通の自転車と異なる部分もありますので、乗車される前には必ず、本取扱説明書をお読みいただき、安全・快適にご使用ください。
お子様がご使用になる時は、必ず本書を保護者の方がお読みになっていただき、正しい乗り方をご指導くださいますようお願いいたします。

本取扱説明書では、正規の取り扱い・点検・整備に関して必要な項目を次のような記号で区分し表示しております。

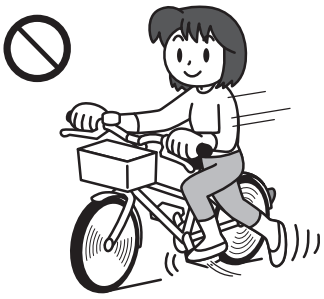
⚠	安全にかかわる注意情報を意味しています。
⚠ 警 告	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示しています。
⚠ 注 意	取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示しています。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示しています。
⃠	安全上してはいけない「禁止」内容を意味しています。

電動アシスト自転車を安全に使用するために

⚠警 告

けんけん乗りは行わない

走りだす前に必ずサドルに座ってから、発進してください。けんけん乗りをすると、電動アシストが作動することで自転車だけが前に進み、体が取り残される場合があり、転倒や接触事故につながるおそれがあります。



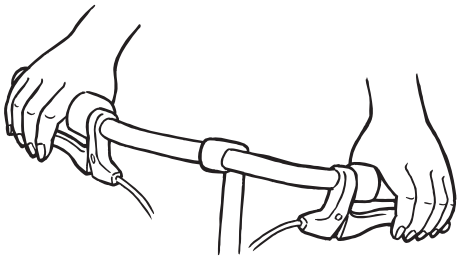
凹凸の差が大きい場所は走らない
(歩道の段差や、溝など)

- 車体や車輪、電動アシストシステムが損傷することで転倒し、けがをするおそれがあります。
- タイヤが溝にはまり転倒するおそれがあります。
- 凹凸の差が大きいところは自転車から降り、押して歩いてください。

電動アシスト自転車の発進に慣れるまでは、車や人の多い道で乗らない

- 電動アシスト自転車は普通の自転車より軽く発進できます。普通自転車と同じようにペダルを踏むと、電動アシストが作動して普通自転車以上に加速するので、驚いて転倒や衝突のおそれがあります。
- まずは安全な場所で練習して電動アシストの感覚に慣れましょう。
- 練習の時は「弱モード」で発進しましょう。
- 危険な走行(高速走行、急坂登坂)はせず、年齢や体力に合った走り方をしてください。

止まっている時は、前と後の両方のブレーキをかけ、ペダルに足を乗せない



- ペダルに足を乗せると、電動アシストが作動する場合があります。
- 止まっている時は、前と後の両方のブレーキをかけ、ペダルには足を乗せないようにしてください。

⚠警 告

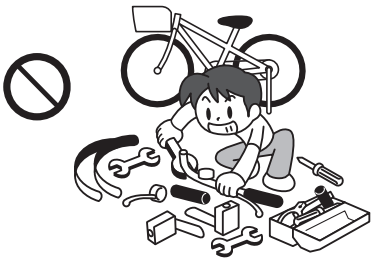
夜走る前に、必ずバッテリー残量をチェックする

- バッテリーによって前照灯（ライト）は点灯しています。バッテリーが減少し、アシストができなくなった場合、しばらく経つと消灯します。その状態で乗車すると衝突や転倒のおそれがあります。
- 無灯火走行は法令により禁止されていますので夜の走行時に前照灯が消えた場合は、自転車を押して歩いてください。

異常を感じた場合は乗らない

- 事故や転倒によってけがをするおそれがあります。
- 異常表示や異常点滅（P79～P85）など、異常な状態を発見した場合はすぐに購入したお店に相談してください。

電動アシストシステムの分解や電動アシストシステムへの注油はしない



- 故障や誤作動が発生し、事故や転倒によりけがをするおそれがあります。
- 電動アシストシステム、バッテリーなどは精密な部品により構成されているため、分解、注油は行わないでください。
- 故障したと思われる時は、「もしもこんなときは」（P79～P90）を参照の上、購入したお店にご相談ください。

自転車を改造しない

- 部品の破損や、故障により、けがのおそれがあります。
- 修理及び、パーツの取り付けは購入したお店にご相談ください。

純正部品以外は使用しない（アクセサリー、交換部品）

- 部品の破損や故障により、けがのおそれがあります。
- タイヤなどの消耗品、アクセサリーなどの部品は、購入したお店にご相談の上、必ず純正部品を取り付けてください。それ以外の市販品を使用した場合は思わぬ事故、故障の原因になります。また保証の適用が受けられない場合もありますのでご注意ください。

自転車や車輪を落としたり、ぶつけたりしない

本電動アシスト自転車は前輪にモーターが組み込まれていますので、モーターが破損、損傷し正しく動かなくなる場合があります。

自転車を安全に乗るために

⚠警 告

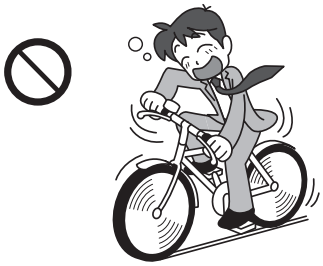
二人乗りはしない
（チャイルドシート（幼児用座席）を使用して幼児を乗せる場合を除きます。）

自転車の二人乗りは道路交通法で禁止されています。転倒や落車などによるけがのおそれがあります。

手やハンドルにバッグや荷物をかけたり、ペットをつないだりしないまた、傘やステッキなどを車体に差し込んだりしない

- 車輪に巻き込んだり、他の人や物にぶつけて転倒し、事故・けがをするおそれがあります。
- 荷物は、バスケットやリヤキャリヤに積んでください。

飲酒時やかぜ薬など服用時、および体調が優れないときは乗らない



運動機能が低下し、衝突などによるけがのおそれがあります。

傘をさしながらの運転はしない

- バランスがとりにくくなり、転倒によるけがのおそれがあります。
- 合図する時以外は両手でしっかりハンドルを握って運転してください。

乱暴な乗りかたはしない
（アクロバット的な乗りかたや急発進、急旋回など）

転倒や落車などによるけがのおそれがあります。

滑りやすい靴（サンダルなど）や、かかとの高い靴などを履いて乗らない

足がペダルから外れて、靴（サンダルなど）が前輪に接触するとハンドル操作ができなくなったり、前輪に靴（サンダルなど）が巻き込まれて転倒するおそれがあります。

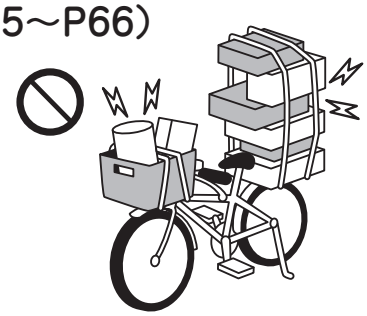
自転車を安全に乗るために

⚠警告

車輪やベルトに巻き込まれやすい服装は避ける
（長いスカートや長いマフラーなど）

- 転倒によるけがのおそれがあります。
- すそが広がっているズボンはバンドやゴムで留めるようにしてください。

積載条件から外れる荷物を積まない（P65～P66）



バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

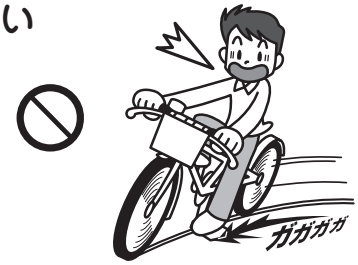
滑りやすいところでは乗らない
（積雪や凍結した道、濡れている鉄板やマンホール、ぬかるみ、歩道の点字ブロックなど）

- スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。
- 自転車から降りて、押して歩いてください。

視界の悪いときは、無灯火で乗らない
（夜間やトンネル内や霧など）

- 見通しが悪くなり、また他の通行者から見えづらくなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。
- 夜間道路を走るとき、及びトンネル内を走るときには必ず前照灯を点灯してください。もし前照灯がつかないときは、押して歩いてください。

カーブで曲がる側のペダルを下げない



ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれがあります。

片側だけのブレーキ操作はしない

- スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。
- ブレーキをかける時は、必ず前後ブレーキを併用し、後ブレーキを先にかけてから前ブレーキをかけてください。

自転車を安全に乗るために

⚠警 告

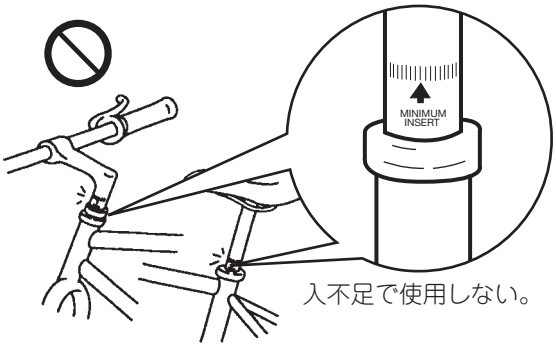
急な登り坂では、自転車から降り押して歩く

登り坂では前輪が浮いたり、ハンドルがとられやすくなり、転倒し事故・けがをするおそれがあります。

踏み台代わりなど走行以外に使わない

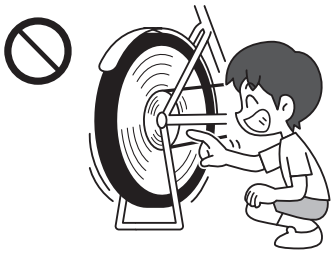
転倒によるけがのおそれがあります。

サドルやハンドルは引き上げ限界線が見える状態で乗らない



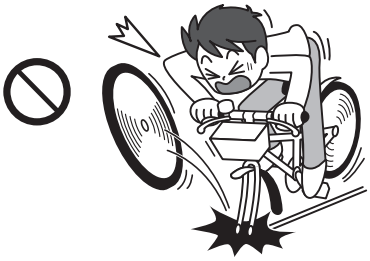
サドルやハンドルの折れや抜けにより事故・けがのおそれがあります。

車輪・ベルトなどの回転部に手や足、ものなどを近づけない また、子供を近づけさせない



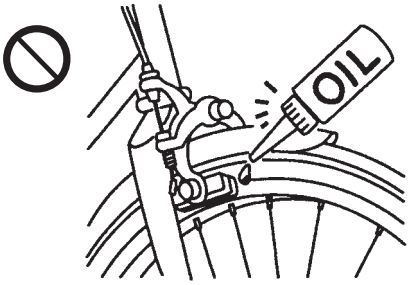
車輪やベルトに巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

車輪の脱着やハンドル、サドルの調整後、締め付けを確認せずに乗らない



- 車輪やサドルが外れて転倒によるけがのおそれがあります。
- 必ず乗る前に点検してください。

ブレーキの制動面やタイヤ、リムに注油しない

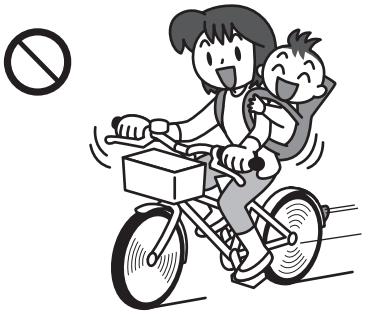


ブレーキが効かなくなり、衝突によるけがのおそれがあります。

自転車を安全に乗るために

⚠警 告

この自転車には、幼児を乗せない



- この自転車にはチャイルドシートは取り付けできません。
- 幼児を同乗させると、安定が悪くなり、転倒によるけがのおそれがあります。

走りながら携帯電話をかけたり、メール操作などをしながら走行することは道路交通法で禁止されています

片手運転と前方不注意により、衝突・転倒のおそれがあります。

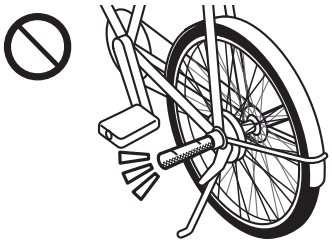
整備不充分のブレーキのままで走行しない（P35、P87）

- 赤さびになったケーブル、ほつれたケーブル、大きく摩耗したブレーキシューなどは制動力を低下させ、衝突・転倒のおそれがあります。速やかに販売店で、点検・交換をしてください。
- 乗る前には安全な広い場所で、前後のブレーキが正しく作動するか必ず確認してください。
- ブレーキレバーの握りしろについては「乗車前点検」の項目を参照してください。
- 雨天のときは、晴天のときより制動距離が長くなります。スピードを控えて、早めの滑らかなブレーキ操作をしてください。
- 後輪のローラーブレーキには専用グリスの補給が必要です。1年毎、またはブレーキをかけたときに音鳴りの発生や制動力に異常を感じたら、販売店でグリスを補給してください。

自転車が完全に止まってから降りる

自転車が完全に止まる前に飛び降りるようにして降りると、バランスを崩して転倒やけがのおそれがあります。

ハブステップを使用しないこと



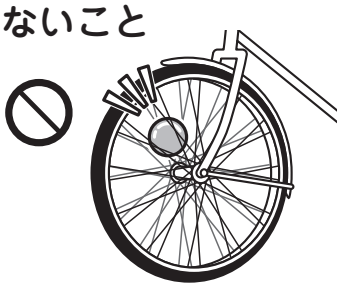
後ハブ軸にハブステップを取り付け、2人乗りで使用すると、ハブステップが破損して転倒したり、事故を起こす危険があります。

自転車を安全に乗るために

⚠警告

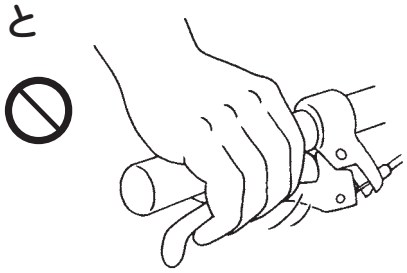
歩行者に危害を及ぼすおそれのある突起物を装着しないこと

スポークの間にボールなどを入れて走らないこと



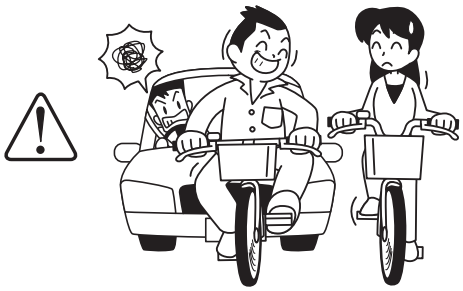
車輪とフレーム、前ホークなどのすき間にはさまって転倒するおそれがあります。

ブレーキレバーの遊びが大きくないこと



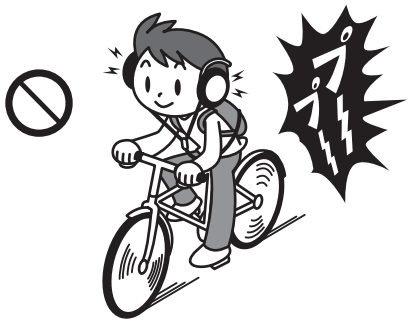
ブレーキレバーの遊びが大きいものは、ブレーキが効かなくなることがあり、危険ですので、すぐに販売店で点検を受けてください。

2人以上で通行するとき、横に並んで通行しない



自転車の並進は道路交通法で禁止されています。他の交通の妨げになったり、接触して、事故を起こす危険があります。1列で通行しましょう。

イヤホン・ヘッドホンを使用しながら乗車することは道路交通法で禁止されています



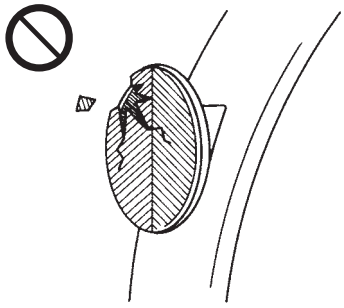
周囲の音が聞こえず、事故を起こすおそれがあります。

リムのブレーキ面に磨耗による変形、ふくれ、キズ、ひび、きれつ、振れ、汚れがあるまま使用しないこと

走行中にリムが破損し、転倒して事故・けがをするおそれがあります。

未組み立て及び未調整の自転車を使用しないこと

リフレクタが破損したり、汚れたまま使用しないこと



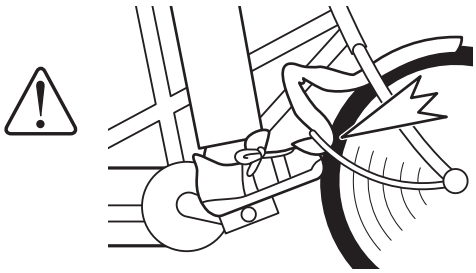
自転車を安全に乗るために

⚠警告

⚠ 変形したり破損した部品はすぐに交換すること

⚠ 夜間使用する時は、前照灯の点灯を確認すること
リヤリフレクターにソーラーテールライトを装着している車両は、ソーラーテールライトの点滅を確認すること

走行中、くつ先が前輪や前ドロヨケに接触しないようにする
（つま先でペダルを踏む）

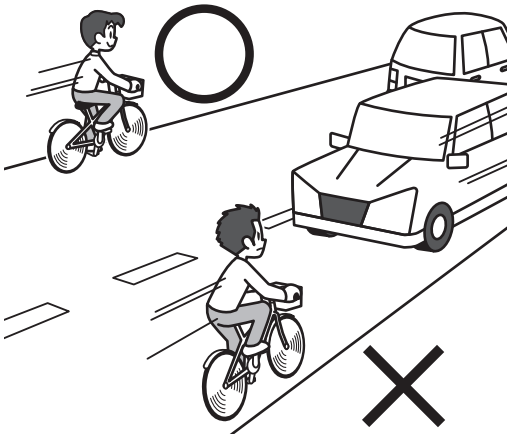


前輪の回転により、足やドロヨケが巻き込まれて、事故を起こす危険があります。

幼児、児童が自転車に乗車する時は、必ず自転車用ヘルメットを着用させてください
また、幼児・児童以外の者が自転車に乗車する時も、安全のためヘルメットの着用をおすすめします。

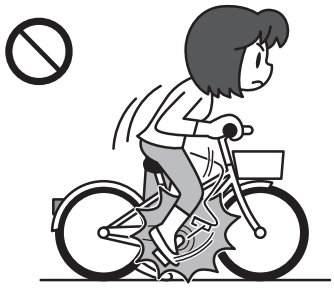
⚠ 車道を通るときは、左側に沿って通行します

車道の右側通行は道路交通法で禁止されています



発進時はペダルを強く踏み込みすぎない

- 思わぬ急発進により転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。
- 一般の自転車のように強く踏み込まなくても、楽に発進することができます。



⚠警 告

サドルの高さ調整

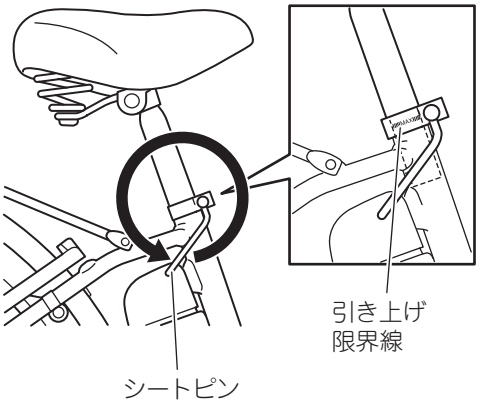
- サドルの高さ調整は運転中に行わないでください。
- サドルを最も高くした場合でも引き上げ限界線がフレームからはみださないようにしてください。シートポストが破損したり、脱落するおそれがあります。

《回転式シートピンの場合》

①シートピンのレバーを矢印の方向に回し、サドルの高さを調節します。このとき、引き上げ限界線が見えない範囲で上下に調整します。

②調整後はシートピンのレバーを確実に締めつけてください。

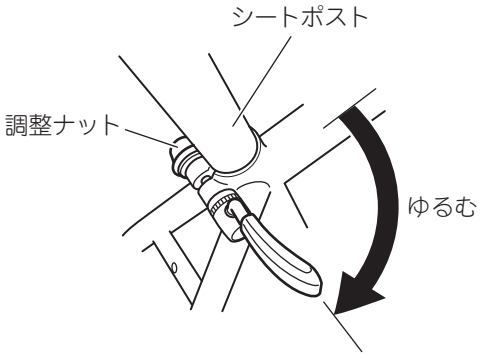
③シートピン締め付け後、サドルが確実に固定されていることを確認してください。



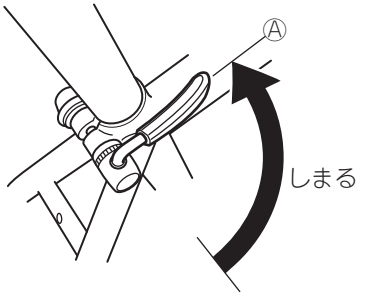
《クイックレバーシートピンの場合》

⚠注意：クイックレバー式シートピンは、カムレバーを開閉して「しまる」「ゆるむ」を行います。カムレバーを回して締め付けるものではありません。

①カムレバーを「ゆるむ」の方向に開いて固定をゆるめ、サドルを上下に調整してください。



②固定するときは「しまる」の方向のⒶの位置までカムレバーを閉じて固定します。



③カムレバーを閉じるときの力は、レバー先端に100N（10kgf）～160N（16kgf）の力で閉じれるように、調整ナットの締め具合を調整してください。

④シートポストが十分に固定しなかったり途中でレバーが固くて閉じれないときは、もう一度調整ナットの締め具合を調整しなおしてください。

自転車を安全に乗るために

⚠注 意

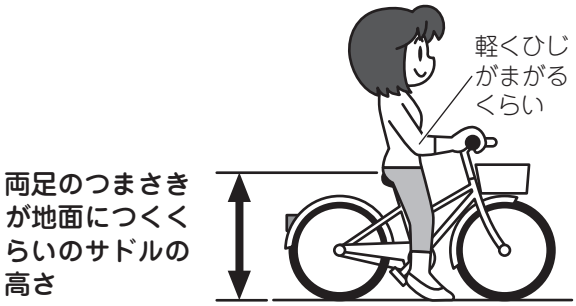
乗る前に必ず乗車前点検をする

- 乗る前には必ず点検を行ってください。（P34～P38）
- 不明な点がありましたら販売店にご相談ください。

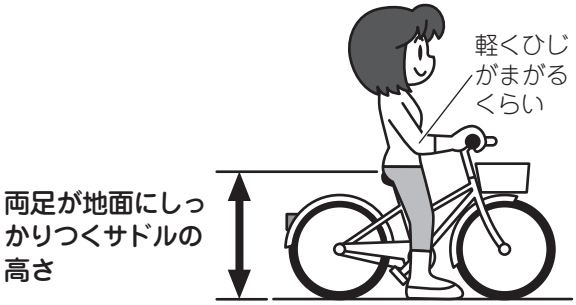
正しい姿勢で走行できるよう調整する

お買い求めの販売店でサドルやハンドルの位置などを自分に合った高さに調整してもらいましょう。

通常の場合



幼児2人同乗の場合



日常点検や定期点検を行ってください

故障したままの整備不良車の運転は禁止されています。

雨天時の坂道走行では、タイヤがスリップしたりブレーキのききが悪くなり、転倒や衝突事故を起こす危険性が高まります

前後ブレーキを併用し速度を落として走行してください。特に雨、風、雪がひどいときや視界が悪いときは、自転車から降りて押して歩いてください。

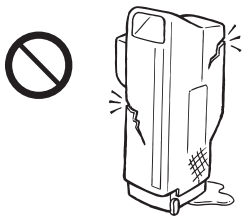
雨などでブレーキが濡れた場合は、乾燥させた後ご利用ください

雨が上がってもブレーキが濡れているとブレーキのききが悪くなります。特に、大雨に当たった場合やブレーキが水に浸かった場合は、必ずブレーキのききを確認し、異常があれば使用を中止してください。

バッテリーや充電器を使うとき

⚠警 告

バッテリーが破損したときや、傷を発見したとき、または異臭がするときは使用しない

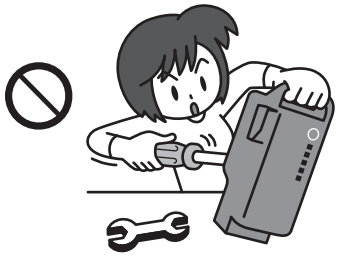


- バッテリーの液漏れによって、やけどするおそれがあります。
- 異常を感じたときは、すぐ購入したお店にご相談ください。

バッテリーの接点を短絡（ショート）させない

発熱、発火、感電、破損、故障の原因となります。

バッテリーを分解したり、改造しない

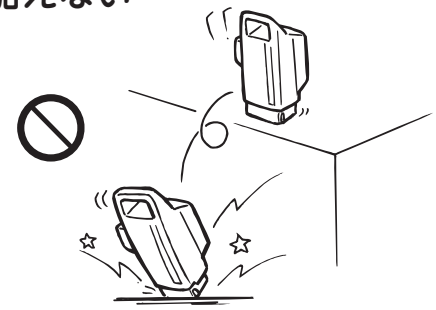


発熱、発火、感電、破損、故障の原因となります。

専用充電器以外の充電器は使用しない

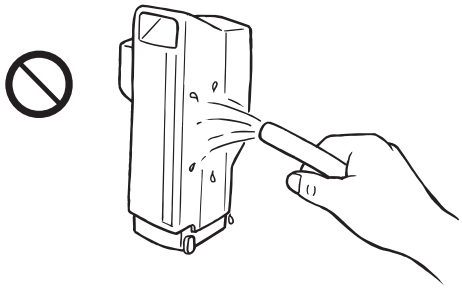
発熱、発火、破損、故障の原因となります。

バッテリーは落とさない、衝撃を加えない



落下等により衝撃が加わると、発熱、発火、破損等の故障の原因となります。

バッテリーに水をかけない、水没させない

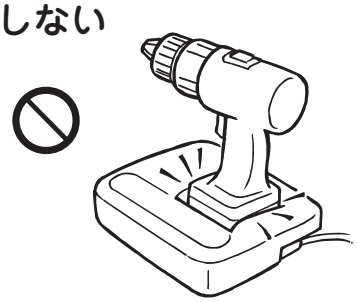


発熱、発火、故障の原因となります。

バッテリーを火に入れたり、過熱しない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。

充電器を他の電気機器の充電に使用しない



火災、破裂、発熱、発火、故障の原因になります。

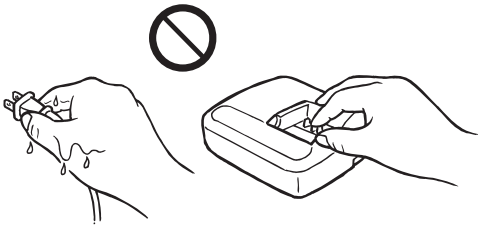
バッテリーや充電器を使うとき

⚠警 告

充電端子を短絡（ショート）させない

発熱、発火、感電、破損、故障のおそれがあります。

ぬれた手で電源プラグを触らない、充電端子に触れない



感電のおそれがあります。

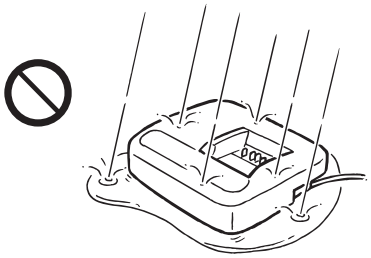
充電端子に電池（乾電池、ボタン電池等）を接触させない

破裂、発火、破損のおそれがあります。

充電器を分解したり、改造しない

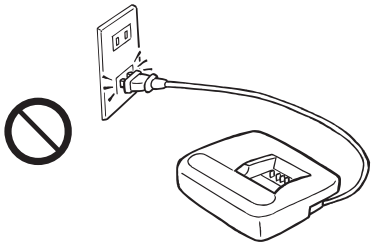
火災や感電の原因になります。

充電器に水をかけたり、屋外で使用しない



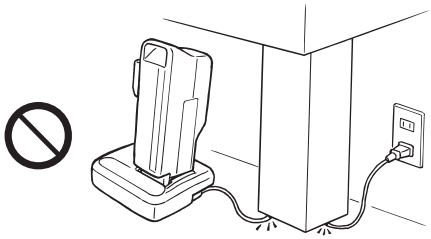
感電や火災、故障の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全の場合、感電や発熱による火災、故障や破損の原因になります。

電源コードの上に物を置いたり、コードをはさんで固定しない



火災や感電の原因になります。

コードに傷がついているときは使用しない

火災や感電、故障のおそれがあります。

充電器を家庭用コンセント（AC100V）につないだままにしない

コンセント部分にほこりがたまり、火災になるおそれがあります。ほこりは定期的に取るようにしてください。
充電器を使用しない場合は、安全のためコンセントから抜いておいてください。

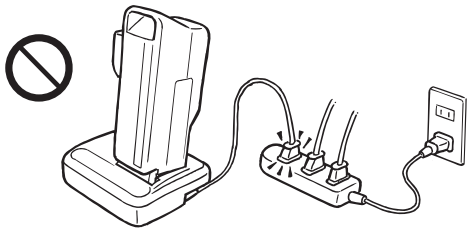
充電する際は、平坦な場所に置き使用すること

不安定な場所で使用した場合、落下や転倒による破損、故障の原因となります。

バッテリーや充電器を使うとき

⚠警 告

コンセントや配線器具の定格を超えた状態や、家庭用コンセント（AC100V）以外で使用しない

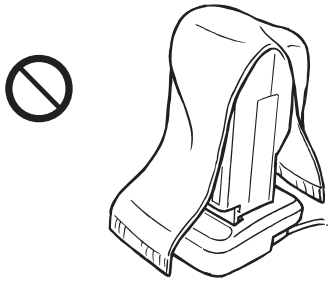


たこ足配線で定格を超えたり、家庭用コンセント（AC100V）以外で使用すると、発熱・発火によって火災や故障の原因になります。

幼児やペットが触れるところにおかない

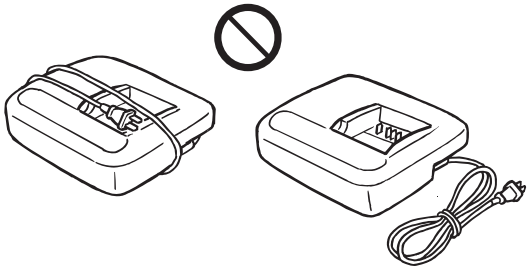
感電や火災、故障、幼児の怪我や事故の原因になります。

充電中は周囲にカバーをしたり、燃えやすい物を置かない



発熱し、火災や故障の原因になるおそれがあります。

電源コードを束ねた状態で使用したり、充電器本体に巻きつけない



電源コードが損傷し、火災や感電などの原因になるおそれがあります。

充電中は長時間同じ場所に触れない

充電中は40℃～60℃になる場合があるため、低温やけどをするおそれがあります。

ガソリンやガス等の引火物の近くでは充電しない

火災や爆発などの原因となることがあります。

充電器を踏んだり落としたり衝撃を与えない

発熱、発火、破損、故障の原因になります。

分解し部品交換や加工をしたバッテリーパックを使用しない

発熱、発火、破裂、破損、故障の原因になります。

バッテリーや充電器を使うとき

⚠注 意

電動アシスト自転車用のバッテリーを他の電気機器に使用しない

他の電気機器に使用すると故障や事故の原因となるおそれがあります。

保護フィルムを剥がしてから使用する

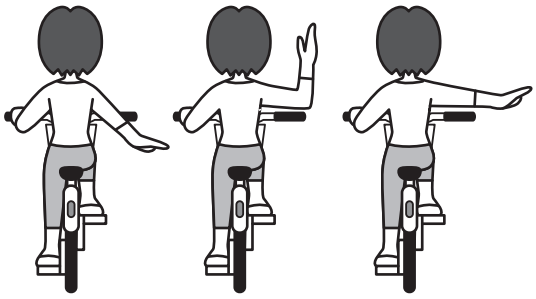
製造工場にて輸送時に傷防止のためバッテリーに保護フィルムを貼って出荷しています。保護フィルムを剥がしたときに、フィルムの糊がバッテリーに残る場合があります。糊残りが発生した場合は、水を固く絞ったタオルなどで拭き落としてください。

自転車の交通ルールについて

交通ルールを守りましょう

1 自転車の正しい乗りかた

- 発進するときは、見通しのきく道路の左側で、後方と前方の安全を確かめる。
- 右折、左折するときは、早めに合図する。
- 停止するときは、安全を確かめて停止の合図を行い、道路の左側に沿って停止し、左側に降りる。



停止　左折　右折

2 自転車の通るところ

- 車道を通るときは、**車道の左側に沿って通行**する。
- 自転車は路側帯を通ることができますが、歩行者の通行に大きな妨げになるところや、白二本線の標示のあるところは通れません。
- 自転車歩道通行可の標識のある歩道は、つぎの方法により通行することができます。
  - 歩道の車道寄りの部分を徐行する。
  - 歩行者の通行を妨げるおそれのある場合は、一時停止する。
- 自転車道のあるところでは、自転車道を通る。
- 道路を横断するとき、近くに自転車横断帯があれば、自転車横断帯を通る。
  自転車横断帯がなく近くに横断歩道があるときは、自転車を押して横断歩道をわたる。

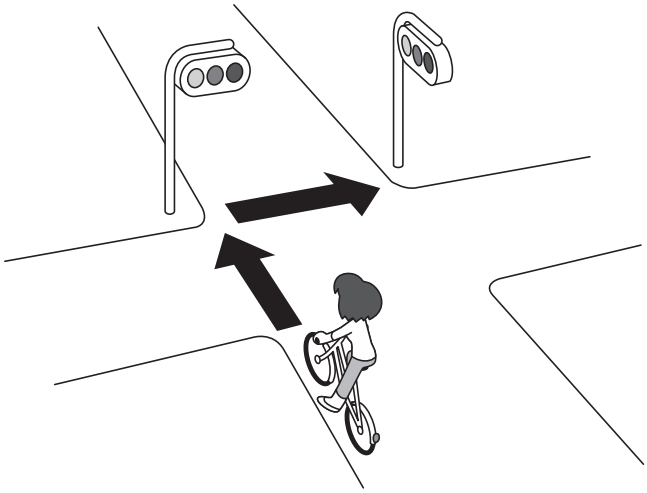
3 自転車が通行できる歩道、路側帯を通るときの注意

- 歩道は歩行者優先であり、車道寄りを徐行すること。
- 歩行者の通行を妨げない。
- こども、身体の不自由な人が歩いているときは、一時停止か、充分速度を落とす。
- **自転車は車道通行が原則です。**道路交通法上、自転車は軽車両と位置づけられています。したがって、歩道と車道の区別のあるところでは車道通行が原則です。但し、次の場合には歩道を通行することができます。
  - 道路標識等で指定された場合
  - 運転者が児童、幼児等の場合
  - 車道または交通の状況からみてやむを得ない場合

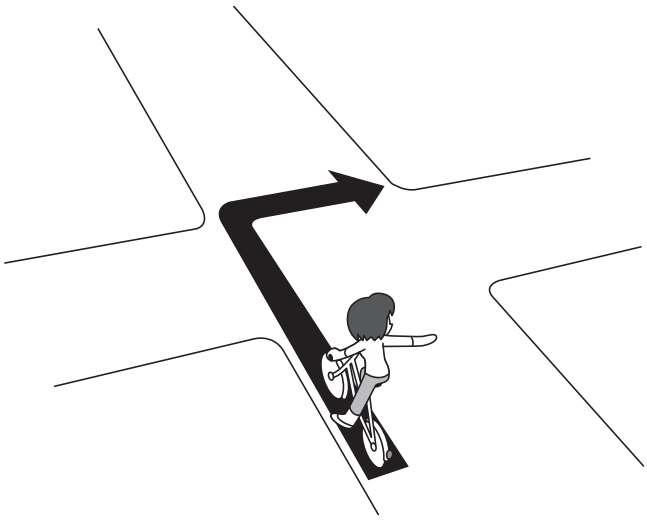
交通ルールを守りましょう（つづき）

4 交差点の通りかた

● 右折の方法
信号などや交通整理が行われているところ



信号がなく交通整理が行われていないところ



● 自転車横断帯があるときは、その自転車横断帯を通る。
● 自転車進入禁止標識のある交差点では、左側の歩道に乗り入れて自転車横断帯を通る。

● ペダル踏力とアシスト力の比率

要 点

ここでは、アシスト力の法令基準について説明しています。電動アシスト自転車はこの基準の範囲内で、ペダルを踏む力や走行速度、変速位置などに応じてアシストをします。

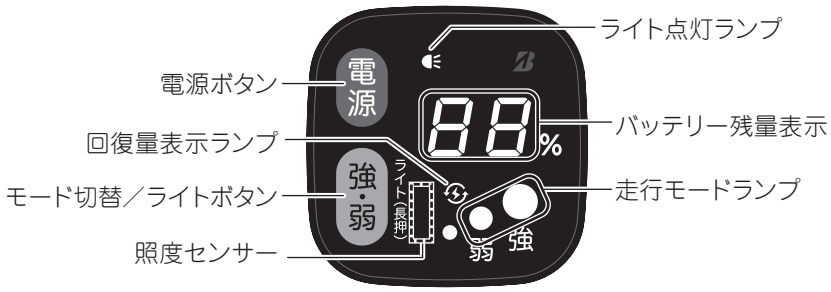
〈法令基準〉

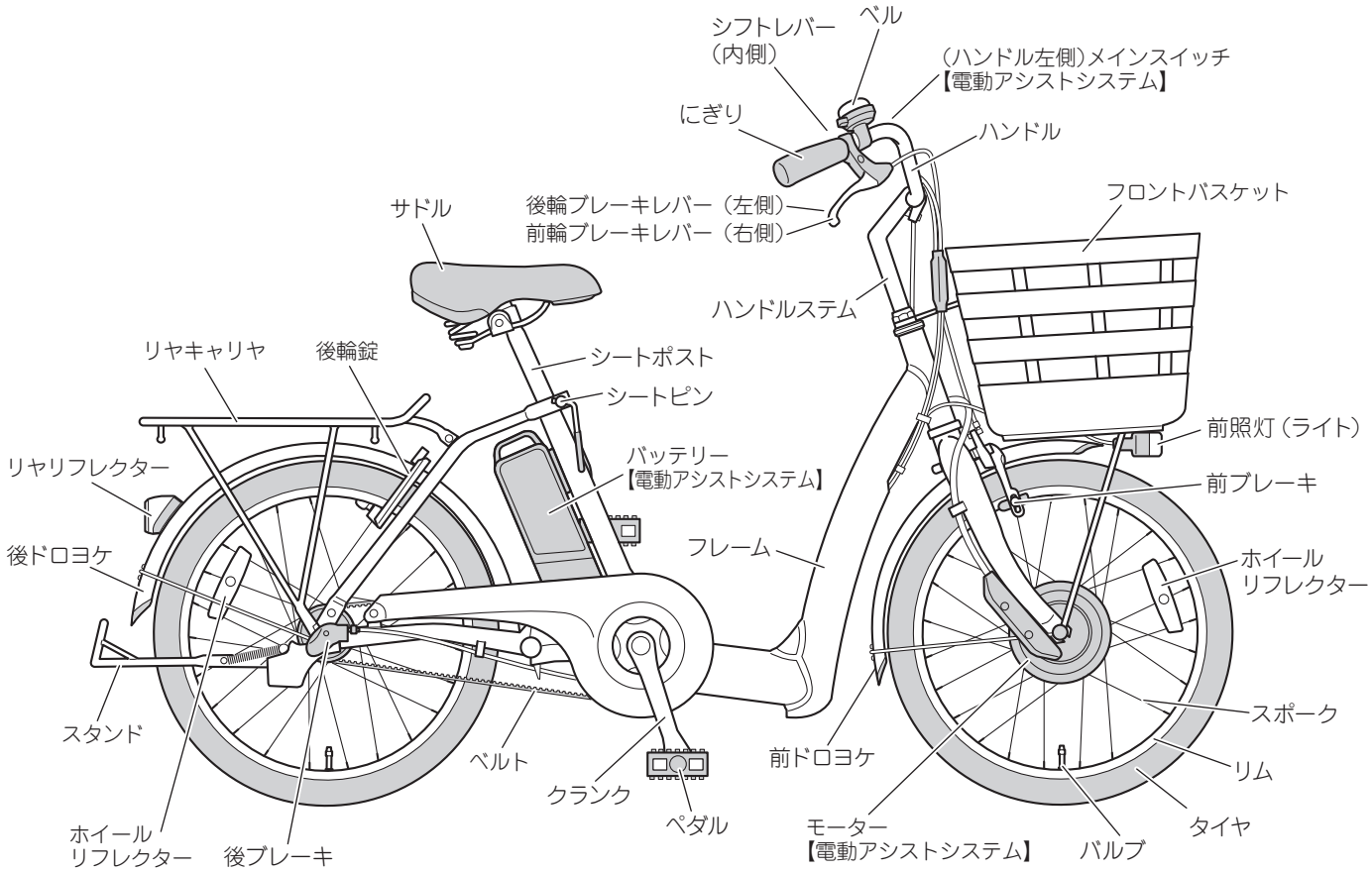
- 時速10Kmまでは、こぐ力とアシスト力の比率が「最大1：2※」となります。
- 時速10Kmを超えると、しだいにアシスト力を弱めていきます。
- 時速24Kmでアシスト力はゼロになります。

※法令基準はあくまで最大値を定めるものです。商品によってこの基準の範囲内でアシストレベルが異なります。

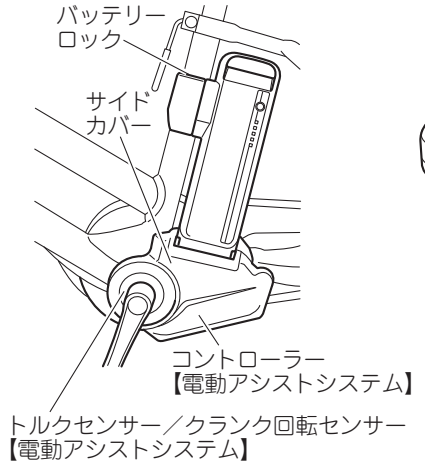
各部の名称

メインスイッチ

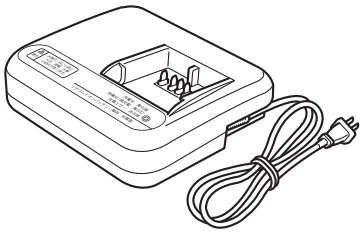




車体左側から見た図



専用充電器



キーを失くしたときは

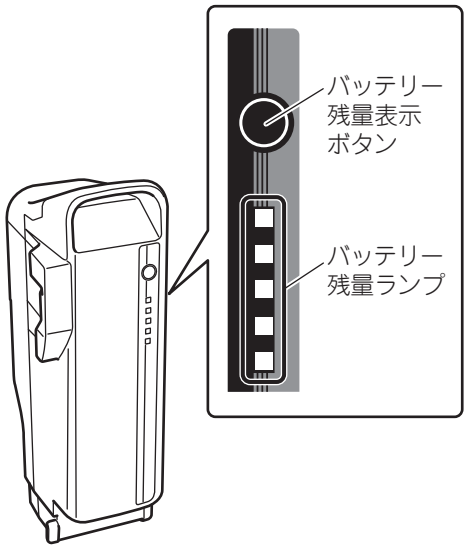
裏表紙の［キー番号記入欄］にキー番号を控えておいてください。
万一、キーを紛失した場合、番号を控えておくことにより、キーの作製が可能です。
キーの作製については、ご購入店にご相談ください。（有料）

バッテリーの特徴

電動アシスト自転車のバッテリー

本電動アシスト自転車のバッテリーはリチウムイオンバッテリーです。
このバッテリーは軽くて電池容量も優れているバッテリーですが、次のような性質があります。

- 極端に温度の高い環境／低い環境では性能低下がある。
- 放置中でも放電がわずかにある。
- 数回使用することで新品時より性能が安定する。



また、このバッテリーは、コンピューターが内蔵されていて、バッテリー残量ランプでバッテリー残量の目安や異常の発生などの情報を知ることができます。
バッテリー残量表示ボタンを押すと、バッテリー残量ランプが約5秒間点灯いたします。
バッテリー残量については「バッテリー残量の確認」(P40)を、異常表示については「もしもこんなときは」(P79～P90)をご確認ください。

要 点

バッテリーを取り外した状態で接続端子が雨水にぬれていても、ご使用に問題ございません。

バッテリーの特性

- 電動アシスト自転車のバッテリーは、温度が上がると、システム保護制御が働きアシスト力が低下することがあります。(故障ではありません。)その後、バッテリーの温度が下がると機能が回復いたします。なお、変速段のシフト位置をそれまで使用していたシフト位置より落としてご利用いただくことで、この現象を回避することができます。(たとえば〈2〉→〈1〉速にする)
- バッテリーの温度が低下すると、一回の充電あたりで走行できる距離が短くなったり、アシスト力が弱くなることがありますが、これはリチウムイオンバッテリーの特性で、故障ではありません。その後、温度が上がると回復します。バッテリーを15～25℃の室内で保管してからご使用いただくことで、この症状を軽くすることができます。
- このバッテリーは置いておくだけで、わずかずつ放電します。ご使用前に充電することで回復します。
- 購入直後(新品時)は一回の充電での走行距離が短い場合がありますが、数回の使用と充電により、本来の性能を発揮いたします。
- バッテリーの温度によりシステム保護制御が作動した場合は、メインスイッチの各走行モードのランプが遅い点滅(0.8秒間隔)をします。

「弱モード」の場合

「強モード」の場合

バッテリーの交換について

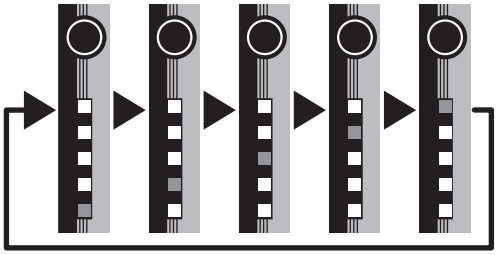
バッテリーの寿命および交換

電動アシスト自転車のバッテリーは、充電と放電が繰り返し（700～900サイクル※1）行われることで、新品のときに比較して約50%まで低下します。また、長い間保管している場合にも、ごくわずかずつですがバッテリー容量は低下します。バッテリー容量が低下すると一充電あたりの走行距離が短くなります。また、アシスト力が弱く感じる場合もあり、このような状態が、充電してももとに戻らないようであれば、そのバッテリーの交換時期です。できるだけ早いうちにバッテリーの交換をお願いします。なお、この場合のバッテリー交換は有料ですのでお店で購入をお願いいたします。

※1　充放電「1サイクル」とは：満充電のバッテリーが残量0（ゼロ）になるまで使用された後、再度満充電にする周期のことをいいます。

長期使用お知らせ機能

長期間の使用によりバッテリー容量の低下が想定されるため、バッテリー交換時期の目安をお知らせする機能を備えています。
お知らせ機能はバッテリーマネージメントシステムにより算出されたバッテリーのその時の容量が基準以下に達すると、充電器接続時及びバッテリー残量表示ボタン押下時にバッテリーのバッテリー残量表示ランプにお知らせ表示を行いお知らせします。
お知らせ表示の表示条件は、以下のとおりです。

お知らせ内容	表示条件	表示時間	表示内容
交換準備	初期容量の約51％以上～約60％以下	バッテリー残量表示ボタン押下後、約3秒	
		充電器接続後、約5秒	
交換推奨	初期容量の約50％以下	バッテリー残量表示ボタン押下後、約5秒	
		充電器接続後、約30秒	

要 点

- 長期使用のお知らせを表記の時間表示したのち、自動的に充電が始まります。
- 長期使用お知らせ機能が作動しても引き続きお使いいただけますが、一充電あたりの走行距離が短く、アシスト力が弱く感じる場合がございます。バッテリーの交換時期ですので、販売店にご相談ください。

バッテリーの交換について

バッテリーの交換に関するお願い

- **バッテリーの様子がおかしいと感じたら、まずは「もしもこんなときは」(P79〜P90)をお読みください。それでも状態が改善しない場合は購入されたお店にご相談ください。**

- **電動アシスト自転車のバッテリーの保証**
  電動アシスト自転車のバッテリーには、一定期間内の著しい劣化・故障に対して、保証しています。
  詳細は保証書をご確認ください。

- **バッテリーリサイクルのご協力のお願い**
  リチウムイオンバッテリーは、「資源の有効な利用の促進に関する法律(資源有効利用促進法)」で、次の2つが義務付けられています。
  - 使用後の回収
  - 再資源化

  使用済みになったバッテリーは、購入されたお店でリサイクルの手続きをしてもらってください。地球の限られた資源を有効活用します。

使用済みバッテリー
(回収リサイクルへ)

リサイクルマーク

充電モードについて（B400バッテリーのみ）

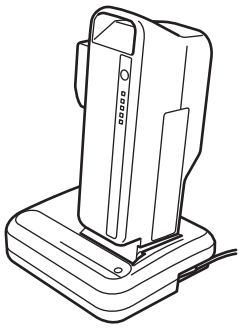
充電モードの種類

リチウムイオンバッテリーB400には2種類の充電モードがあります。電動アシスト自転車の使用環境に応じて、設定を変更することができます。

- **通常充電モード**
  充電器にセットすると、満充電まで充電します。
- **リミット充電モード**
  充電器にセットすると、満充電までは充電せず、回復充電が可能なバッテリー残量で充電を完了します。
  ※この残量は電池の状態により変動しますが、常温で新品時には70％～80％程度です。

充電モード設定の変更方法について

充電モード設定を変更する手順について説明します。



1 電池を充電器に接続します。

P31「充電器のつなぎかた」を参照してください。

要 点

- 充電モード設定は、バッテリーを充電器に接続した状態でないと行えません。
- バッテリーを充電器に接続した状態でバッテリー残量表示ボタンを約3秒間長押しすると、選択中の充電モードをバッテリー残量ランプに表示します。
- 充電待機中、充電異常中は充電モードの表示及び設定変更はできません。

2 バッテリー残量表示ボタンを約10秒間長押しします。長押し中にバッテリー残量ランプが右図のように変化します。充電モードが切り替わったことを確認したら指を放します。

※一度の長押し操作で切り替えられる充電モードは1回のみです。10秒を超えてバッテリー残量表示ボタン押し続けても、充電モードはそれ以上切り替わりません。再度、変更したい場合は、一旦、ボタンから指をはなした後、改めて長押し（約10秒）してください。

充電モード	バッテリー残量ランプの表示
通常充電モード	✱□□□✱
リミット充電モード	□✱✱✱□

充電モードについて（B400バッテリーのみ）

リミット充電モードの特徴

- 充電完了直後より、回復充電機能が作動します。
- 充電量を抑えますので航続距離が短くなります。

〈お勧めの環境〉

- 家が坂の上で走行開始から長い下り道の方
- 充電直後から回復充電機能を使用したい方

⇒平地、下り坂回復充電機能、及びブレーキ回復充電機能をすぐに使うことができます。

要 点

- 【リミット充電モード】で充電した場合は、充電完了直後でも残量表示は5灯になりません。
- モードは何度でも切り替えることができます。
- リチウムイオンバッテリーB200、リチウムイオンバッテリーB300は、【リミット充電モード】に対応していません。

⚠注 意

- **【リミット充電モード】では満充電まで充電されませんので1回の充電での航続距離が短くなります。**
- **【リミット充電モード】で充電しても、自転車を使用する際、バッテリーの内部温度が著しく高い若しくは低い場合には、バッテリー保護のため回復充電機能は作動しません。**
- **【リミット充電モード】で充電しても、自転車使用中の回復充電機能により満充電へ近づくと回復充電機能が弱くなる場合があります。**
- **電池の状態により【リミット充電モード】で充電できる量は変動します。劣化が進むと充電率は低下し、充電完了後の残量表示が少なくなる傾向にあります。**

バッテリー残量ランプの表示	バッテリー残量表示ボタン操作
充電状態表示 ※充電完了時は消灯	ボタン押下前
充電状態表示（約3秒間） ※充電完了時は残量表示 ↓ **現在の充電モード表示**（約5秒間） ↓ **充電状態表示**（約2秒間） ※充電完了時は消灯 ↓ **変更後の充電モード表示**（約5秒間） ↓ **充電状態表示** ※充電完了時は消灯	ボタン押下 充電モード設定変更開始 ↓ 押下継続（約10秒） ↓ 指をはなす 充電モード表示が切り替わったら指をはなす

要 点

- 出荷時は【通常充電モード】で設定しています。
- バッテリー残量が回復充電可能な残量を超えている状態で【リミット充電モード】に変更した場合は、モードは変更されますが回復充電機能は動作しません。また、回復充電可能な残量まで使用しないと、次の充電ができなくなります。

充電に適した環境

非常に暑い／寒い場所では充電が正しくできない場合がありますので、次のような充電に適した環境で充電を行ってください。

- 温度は15～25℃
- 室内
- 雨水に当たらないところ
- 湿気の少ないところ
- 直接日光に当たらないところ
- 風通しがよいところ
- 平らで充電器が安定して設置できるところ
- 幼児やペットが触れないところ

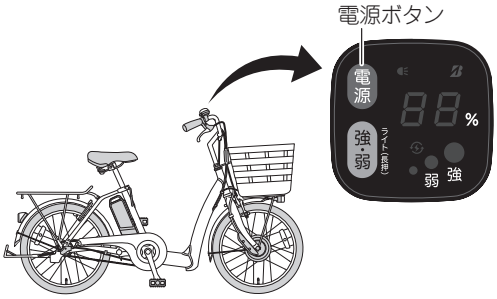
要 点

充電器との位置関係によっては、近くのテレビやラジオにノイズが発生する場合があります。

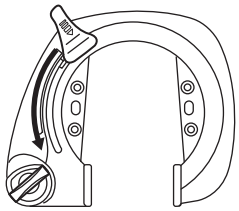
バッテリーの脱着

バッテリーの取り外しかた

1 メインスイッチのランプ類が消灯して、電源が切れていることを確認します。電源が入っている場合は、メインスイッチの【電源ボタン】を押して電源を切ります。

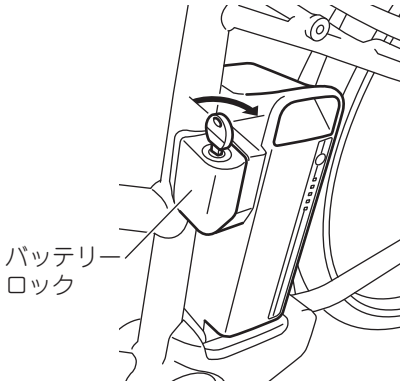


2 後輪のサークル錠を施錠した後、キーを抜き取ります。



3 バッテリーロックにキーを挿入し、キーを時計回りに回します。

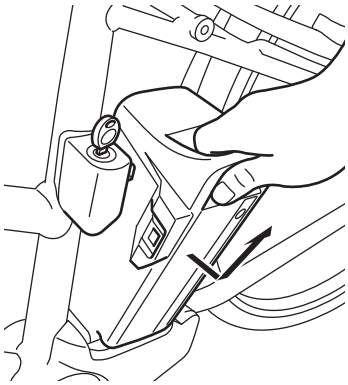
> **⚠注 意**
> バッテリーに手を添えてください。



4 バッテリーロックが解除され、バッテリーが外せる状態になります。

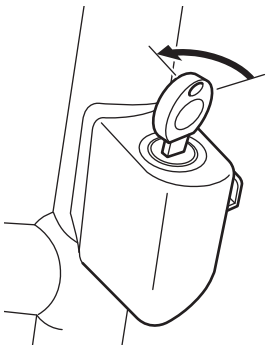
5 バッテリーのグリップをしっかりと持ち、自転車の左側に倒すよう動かし上方へバッテリーを取り出します。

> **要 点**
> バッテリーを取り外したまま、駐輪しているときに、接続端子が雨水にぬれてもご使用に問題ありません。



6 バッテリーを取り外した後、キーを反時計回りに回してから、キーを抜き取ります。

> **⚠注 意**
> キーを忘れずに抜き取ってください。

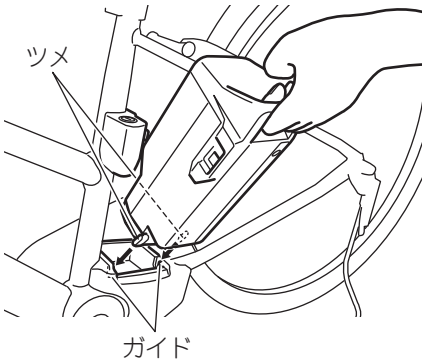


7 バッテリーを充電します。（P31～P33）

バッテリーの脱着

バッテリーの取り付けかた

1 **自転車側のガイドに、バッテリー下部のツメを合わせながら、ゆっくりとバッテリーを差し込みます。**



⚠ 警 告

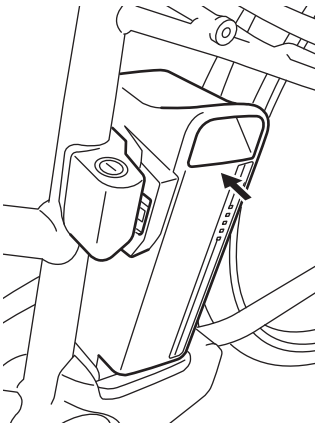
バッテリーを装着する時に指などをはさまないように注意してください。

⚠ 注 意

自転車側のバッテリー装着部にゴミが付いていない状態でバッテリーを装着してください。

2 **バッテリーのグリップ側（上部）を自転車方向に押し込みます。**

中央付近まで行くとカチッと音がしてロックされます。



要 点

キーをロックに差し込んだ状態でバッテリーを取り付けられますが、バッテリーのグリップ側（上部）を中央まで入れた後、手でバッテリーを軽く押しつけながらキーを反時計方向に回してロックした後に、キーを抜いてください。

⚠ 警 告

バッテリーが確実に装着されていないと、バッテリーが落下するおそれがあります。

⚠ 注 意

- **バッテリーを取り付けた後は、確実にロックされていることを確認してください。**
- **走行前にキーを忘れずに抜き取り、バッテリーロックに差し込んだまま走行しないでください。**

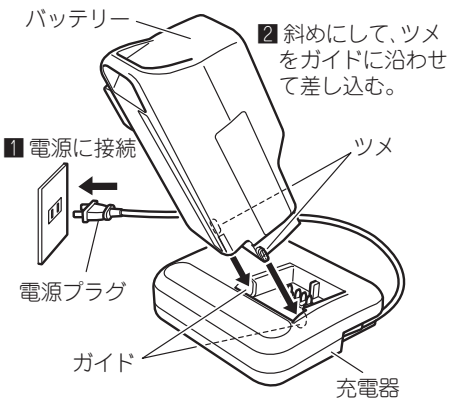
充電のしかた

バッテリーの充電は、バッテリーを車両から取り外し、専用充電器を使用して充電してください。

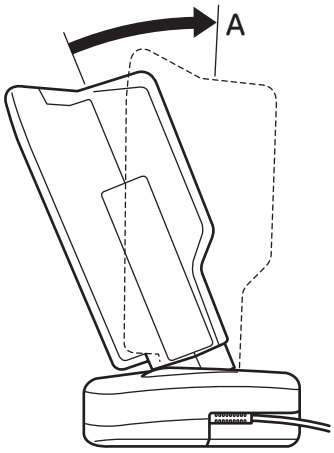
充電器のつなぎかた

1 充電器の電源プラグをコンセント（100V）に差し込みます。

2 充電器に対して斜めの方向から充電器に差し込みますが、その際にバッテリー下部の2か所のツメを充電器のガイドに沿わせるようにしてください。



3 バッテリーを充電器に対してまっすぐに起こし確実に充電器へ接続します。（図のAの方向へ押すようにします）
充電器が電源に接続されていれば、バッテリーを充電器に差し込むだけで、自動的に充電されます。



4 バッテリーの充電状態を、充電器の充電ランプもしくはバッテリーのバッテリー残量ランプで確認します。
充電状態は「充電状態の見かた」をご参照ください。
（P32）

⚠ 警 告

充電中の異音・異臭・煙がでるなど異常に気がついたら、ただちに充電器の電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーも充電器から取り外してください。

5 充電の完了を確認できたら、バッテリーを充電器から取り外します。
バッテリーの充電が完了すると、充電器の充電ランプが青色点灯し、バッテリーのバッテリー残量ランプは消灯します。充電器の方も押さえながらバッテリーのグリップをもって手前に倒してから、斜め上側に引くようにして取り外します。

充電状態の見かた

充電の確認

充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプでバッテリーの充電状態の確認を行います。

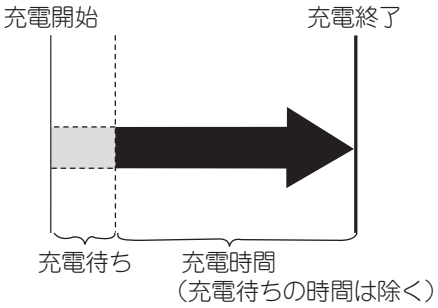
充電ランプの表示	バッテリー残量ランプの表示	状　態
充電中　青点滅 待機中/満充電　青点灯 充電エラー　赤点滅 青色に点灯	5灯同時に点滅	バッテリーの内部が過度に高温または過度に低温のときは、充電器の充電ランプは青色に点灯し、バッテリーのバッテリー残量ランプは全て点滅することで、充電待ち状態であることをお知らせします。 このような場合は、一旦充電を中止していただき、充電に適した環境にて改めて充電をしてください。
充電中　青点滅 待機中/満充電　青点灯 充電エラー　赤点滅 青色に点滅		正常な充電状態の場合は、充電器の充電ランプは青色に点滅し、バッテリーのバッテリー残量ランプは現在の残量分の一番上のランプが点滅します。 充電が進むにつれバッテリーのバッテリー残量ランプが1灯ずつ増えていきます。それに伴って点滅するランプの位置も一つ上に移動します。 ※【リミット充電モード】に設定している場合は、5灯まで増えません。
充電中　青点滅 待機中/満充電　青点灯 充電エラー　赤点滅 青色に点灯	全点灯後に消灯	充電が正常に完了すると、充電器の充電ランプは青色に点灯し、バッテリーのバッテリー残量ランプは全てのランプが点灯した後に消灯します。

要 点

- 過度に高温となったことで充電待ちになったバッテリーが、充電できる温度に下がるまで、室内の温度が高い状態の場合ほど時間がかかります。室内の温度が30℃の場合、充電できる温度に下がるまで1～2時間必要とする場合があります。
- 正常に充電している状態であっても、途中でバッテリー内部が規定の温度を超えたとき、バッテリー保護のために自動的に充電が中断されるように設定されています。この場合、充分にバッテリーが充電されない場合がありますので、しばらくバッテリーを冷ました後で、充電に適した環境で改めて充電を行ってください。

充電時間の目安

バッテリーの充電時間は、バッテリー内部の温度によって変化いたします。また、お買い求めいただいた電動アシスト自転車に装備されているバッテリーの種類（容量）によって異なります。
バッテリー残量ランプが1灯点滅の状態まで使用した場合、満充電になるまでの充電時間は製品仕様書をご参照ください。



⚠警 告

バッテリー充電中に異常に気がついた時は、ただちに充電器の電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーも充電器から取り外してください。

要 点

充電時間の目安には、充電待ち時間（バッテリー内部の温度が充電できる温度に下がるまでの時間）は含まれておりません。

乗車前点検

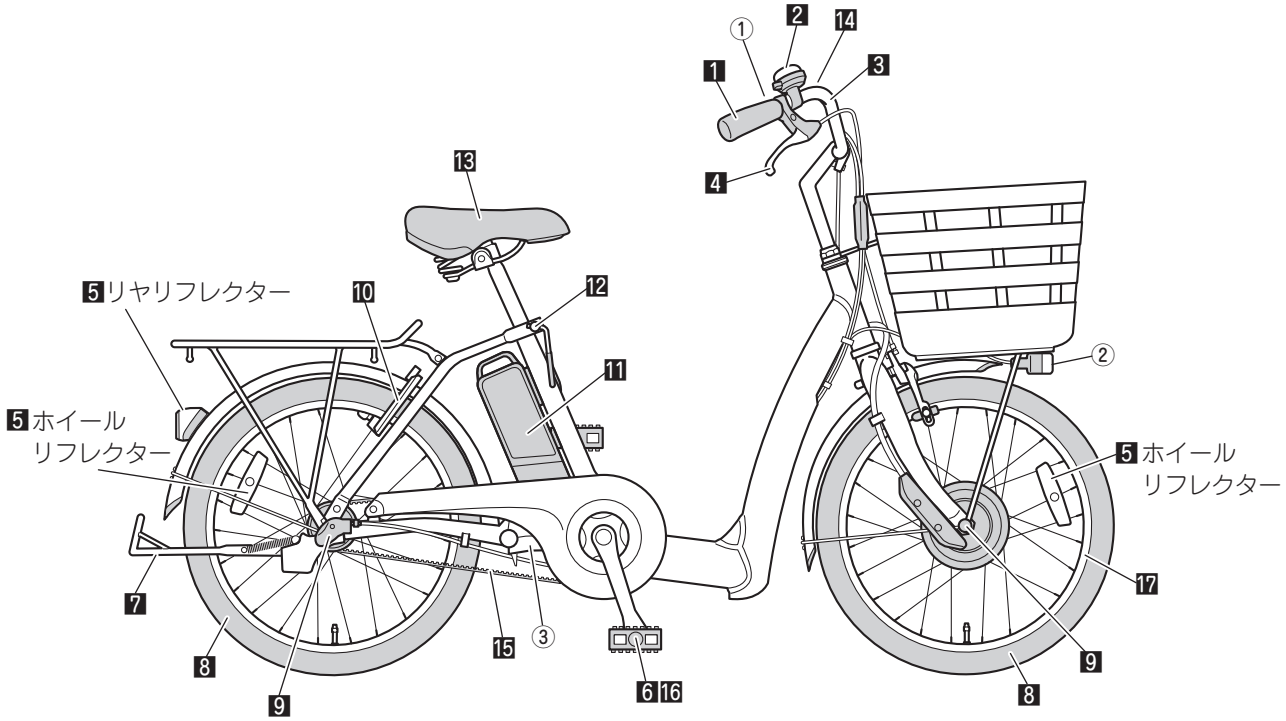
⚠警 告

- 乗車前点検を必ず実施してください。
- 点検で異常が認められた場合は、すみやかに販売店で点検してください。
- わからないことや難しいと感じた時は、販売店にご相談ください。

- 走行前に確認を行う項目　1～17
- 走行開始してすぐに確認する項目　①～③

要 点

メインスイッチの電源を切った状態で点検してください。



自転車のイラストは代表例です

1 にぎり（グリップ）の固定状態

にぎり（グリップ）に力を入れてもハンドルに対しても回ったり、抜けないことを確認します。

2 ベル（報知器）の作動具合

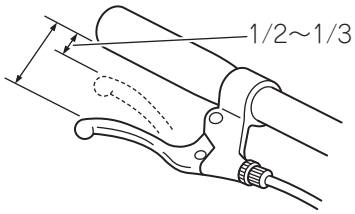
ベル（報知器）が正常に鳴るか、動きが悪くないかを確認します。

3 ハンドルの状態

ハンドルを上下・左右・前後方向に力を加えても、がたつかないか確認します。また、ハンドルが前輪に対してほぼ直角に取り付けられているか確認します。
ハンドルの高さは、サドルにまたがった状態でハンドルバーを握ったとき、軽くひじが曲がるくらいが適正な位置です。

4 ブレーキレバーの握り調整

左右のブレーキレバーを握った時に、レバーとハンドルグリップとの間が約1/2〜1/3になった状態でブレーキがきくか確認します。
ブレーキレバーの握りしろが大きすぎる場合、または小さすぎる場合は、購入したお店で点検・調整を受けてください。



5 フロントリフレクター、リヤリフレクター、ホイールリフレクターのよごれ・破損

リフレクターに汚れや破損がないか点検します。よごれている場合は拭き取ってください。また、破損している場合は交換します。

6 ペダル他、可動部のがたつき

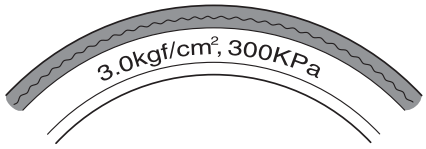
ペダルなど可動部に、異常ながたつきがないか、滑らかに回転するか確認します。がたついている場合はボルトなどの増し締めをします。

7 スタンドの作動

スタンドが滑らかに作動し、がたつき等がないか確認します。

8 タイヤの空気圧、摩耗、損傷

十分空気が入っていて、タイヤ側面に表示されている推奨空気圧になっているか確認します（図の数値は表示の例です）。空気ミハル君が装備されている場合は、空気ミハル君の赤色サインでも確認が可能です。空気圧が適正値でないと、パンクや車体各部のがたつきの原因になります。その他に、タイヤが摩耗していないか、釘などの異物がささっていないか確認します。



《タイヤ空気圧表示例と換算値》

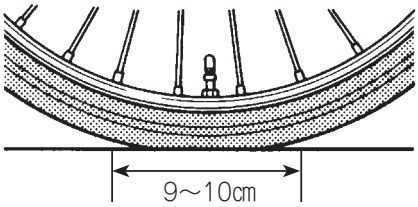
1KPa=0.01kgf/cm²=0.145PSI

KPa	kgf/cm²	PSI
300	3.0	43.5
450	4.5	65
690	6.9	100

一般のシティ車は3kgf/cm²（3気圧）が適正空気圧です。

《空気圧の簡易判定のしかた》

自転車に乗車した状態での接地面の長さで空気圧を判定してください。



乗車前点検

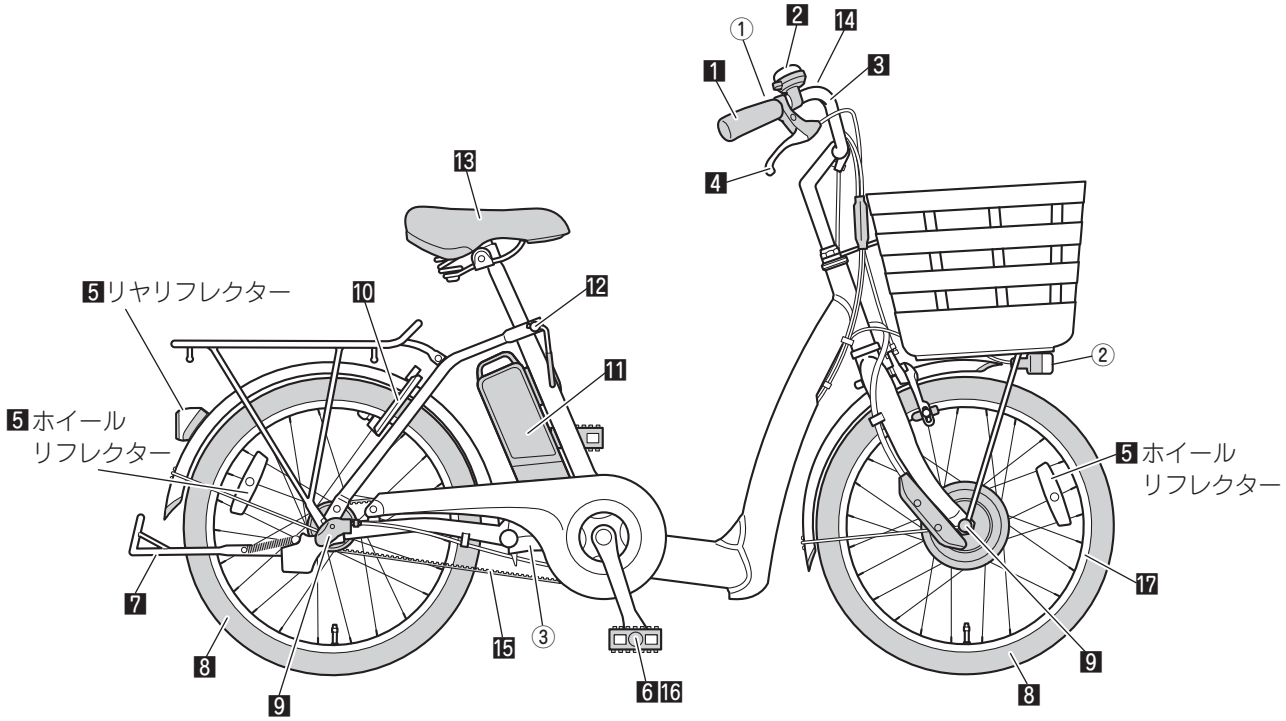
⚠警 告

- 乗車前点検を必ず実施してください。
- 点検で異常が認められた場合は、すみやかに販売店で点検してください。
- わからないことや難しいと感じた時は、販売店にご相談ください。

- 走行前に確認を行う項目　1～17
- 走行開始してすぐに確認する項目　①～③

要 点

メインスイッチの電源を切った状態で点検してください。



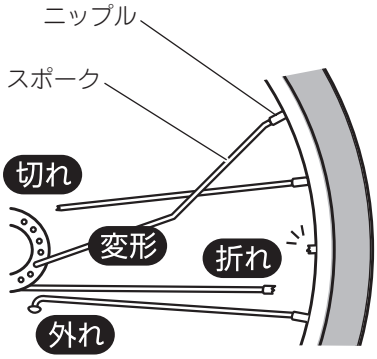
自転車のイラストは代表例です

9 前後車軸とスポークの状態

前後車軸に、ゆるみやがたつきがないかを確認します。
また、スポークやニップルの切れ、外れ、変形を確認し、みつかった場合は早急に交換してください。

⚠警 告

ホイールが変形し、ブレーキと接触して走行性が損なわれ、転倒するおそれがあります。スポークが一本でも外れたまま走行を続けると、他のスポークに大きな負担が繰り返し加わり、スポーク寿命が低下し、スポーク切れが継続して発生する場合があります。スポークは全て交換することをお勧めします。



10 後輪錠の作動

後輪錠が滑らかに作動するか確認します。

11 バッテリーの取り付け

バッテリーが自転車にしっかりと固定されているか確認します。また、バッテリーロックからキーを抜き取っていることを確認してください。

12 サドルの高さを調整するシートピン

シートピンがゆるんでいないか確認します。

13 サドルの状態

適切なサドル高さは、サドルにまたがった状態で両足のつま先がともに地面につくくらいの状態です。また、サドルの固定に異常（ゆるみやがたつき）がないかを確認します。

14 バッテリーの残量

メインスイッチの電源を入れると、バッテリー残量ランプが表示されるので目安を確認します。

15 カーボンソリッドドライブのベルトのたわみ

カーボンソリッドドライブ（P71～P72）をご参照していただき、ベルトの張りを点検してください。ベルトの張りが弱い場合は販売店に調整を依頼してください。

16 電動アシストシステムの作動

メインスイッチの電源を入れた状態で、ペダルを踏み込み発進させ、電動アシストシステムが作動するか確認します。

17 リムのブレーキ面磨耗

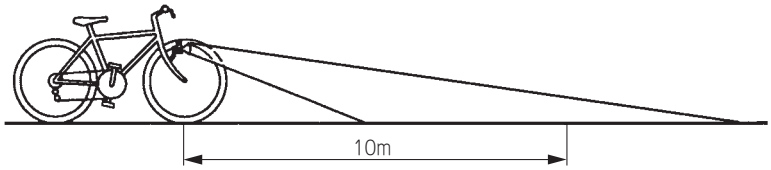
変形、ふくれ、キズ、ひび、きれつ、振れ、汚れがないことを確認します。

① 変速機の作動

走行時に変速操作をしても変速機が作動しないなど、変速機に異常を感じた場合は購入したお店にご相談ください。

② 前照灯の点灯／照射角度

前照灯の照射状態は、10m前方の路面部に光軸中心があるか確認します。



メインスイッチの【モード切替／ライトボタン】の長押し2秒で前照灯（ライト）が点灯します。もし点灯しない場合は、購入したお店にご相談ください。

乗車前点検

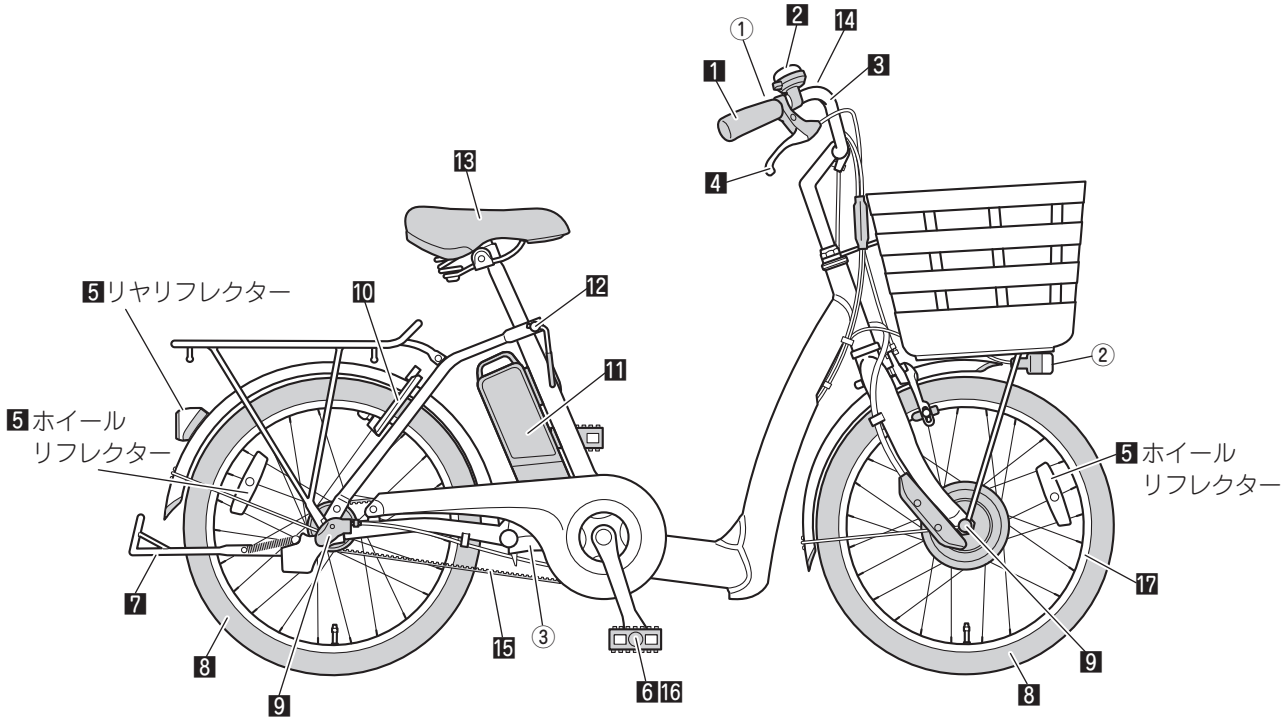
⚠警 告

- 乗車前点検を必ず実施してください。
- 点検で異常が認められた場合は、すみやかに販売店で点検してください。
- わからないことや難しいと感じた時は、販売店にご相談ください。

- 走行前に確認を行う項目　1～17
- 走行開始してすぐに確認する項目　①～③

要 点

メインスイッチの電源を切った状態で点検してください。



自転車のイラストは代表例です

③ 電動アシストシステムの作動

発進時、電動アシストシステムの作動に異常がないか確認します。電動アシストシステムから通常発生しない異音、煙や異臭の発生など異常が認められたときは、ただちに使用をやめ購入したお店にご相談ください。

⚠注 意

電動アシストシステムは精密部品です。分解などは決して行わないでください。
もし、異常が認められる場合はただちに使用をやめ購入したお店にご相談ください。

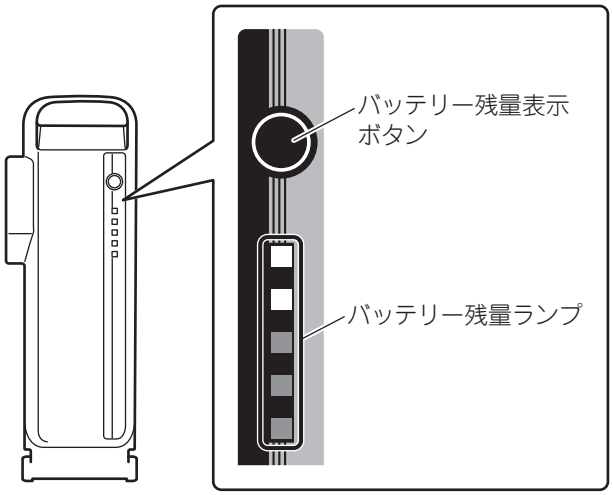
バッテリー残量の確認

バッテリー残量の見かた

電動アシスト自転車に乗る前には必ず、バッテリーの残量を確かめましょう。

バッテリーにどの程度の容量が残っているか、どの程度充電されているかの目安を確認することができます。確認はメインスイッチのバッテリー残量表示と、バッテリーのバッテリー残量ランプのいずれかで行うことができます。
メインスイッチのバッテリー残量表示は、電源を入れると表示します。

バッテリーのバッテリー残量ランプを確認するときは、バッテリー残量ランプの上側のバッテリー残量表示ボタンを押します。
（バッテリーが車載状態でも、車両から取り外した状態でも同じです。）



要 点

- メインスイッチの電源が入っているときは、バッテリーのバッテリー残量ランプは表示しません。メインスイッチのバッテリー残量表示をご確認ください。

バッテリー残量の確認

メインスイッチのバッテリー残量表示の目安

メインスイッチのバッテリー残量表示	バッテリー残量の目安	バッテリーの状態
FL	96～100%	バッテリー残量の目安が100%（FL）から21%の間は、5%ずつ減少しながら点灯表示していきます。
95 ～ 25	91～95% ～ 21～25%	
20 ～ 11	20% ～ 11%	バッテリー残量の目安が20%から11%の間は、1%ずつ減少しながら点灯表示していきます。
10 遅い点滅〈0.8秒間隔〉 ～ 05 遅い点滅〈0.8秒間隔〉	10% ～ 5%	バッテリー残量の目安が10%から5%の間は、1%ずつ減少しながら遅い点滅表示していきます。バッテリー残量がわずかな状態です。
00 遅い点滅〈0.8秒間隔〉	1～4%	0%を遅い点滅表示します。バッテリー残量がわずかな状態です。
00 速い点滅〈0.2秒間隔〉	0%	0%を速い点滅表示します。バッテリー残量が0（ゼロ）になりましたので充電してください。

要 点

- バッテリーの容量が0（ゼロ）になっても普通の自転車として走行することができます。
- 古くなったバッテリーを使用していると、充電直後でも発進時にバッテリー残量表示が急激に少なく表示することがありますが、故障ではありません。走行が安定し負荷が少なくなれば適切な数値を表示します。
- リチウムイオンバッテリーは、ニッカドバッテリーやニッケル水素バッテリーにあるメモリー効果がありませんので継ぎ足し充電が可能です。
- 長期間放置した電池は保護機能により電源が入らなくなる場合があります。その場合は充電器に一旦接続すると保護機能が解除されます。

バッテリー残量の確認

バッテリーのバッテリー残量ランプの目安

バッテリー残量ランプの表示	バッテリー残量の目安	バッテリーの状態
	100～80%	残量ランプが1灯ずつ消灯していきます。
	79～60%	
	59～40%	
	39～20%	
	19～10%	
1灯目の遅い点滅〈0.5秒間隔〉	10%未満	バッテリー残量がわずかな状態です。
1灯目の速い点滅〈0.2秒間隔〉	0%	バッテリー残量が無くなりましたので、充電が必要です。

要 点

- バッテリーの容量が0（ゼロ）になっても普通の自転車として走行することができます。
- リチウムイオンバッテリーは、ニッカドバッテリーやニッケル水素バッテリーにあるメモリー効果がありませんので継ぎ足し充電が可能です。
- 長期間放置した電池は保護機能により電源が入らなくなる場合があります。その場合は充電器に一旦接続すると保護機能が解除されます。

走行モードについて

走行モードの使い分けかた

走行状況に合わせて、強モード、弱モードの走行モードが選べます。
イラストは走行状態の違いによるアシスト力の変化を示しています。

走行モード	特徴	アシスト制御イメージ			
		発進時	平坦路	ゆるい上り坂	きつい上り坂
強モード	急勾配坂道に				
弱モード	長距離走行に				
		最初のこぎ出しをアシスト	平坦路ではアシスト力を抑制	登坂に対向してアシスト力を増加	さらにアシスト力をアップし走行サポート

※イラストはイメージです。路面や風など走行条件により変化します。

強モード	いつも力強いアシスト力でサポートするモード	漕ぎだしやきつい上り坂など十分なアシスト力が必要なときに使います。
弱モード	節電し走行距離を伸ばすモード	走行条件によりアシスト力を自動的にコントロールします。 平坦な道や緩やかな坂などで使います。
アシストオフモード	アシスト機能を作動しないモード	メインスイッチは機能するが、通常の自転車走行をしたいときに使います。

走行モードについて

走行モードの表示

弱モード、強モード、アシストオフモードの各走行モードは、メインスイッチの走行モードランプの点灯状態で確認することができます。

弱モード	
強モード	
アシストオフーモード	

走行モードについて

走行モードの切り替え

メインスイッチの【電源ボタン】を押して電源を入れます。
（電源が入っていると、ランプ類が点灯します。）

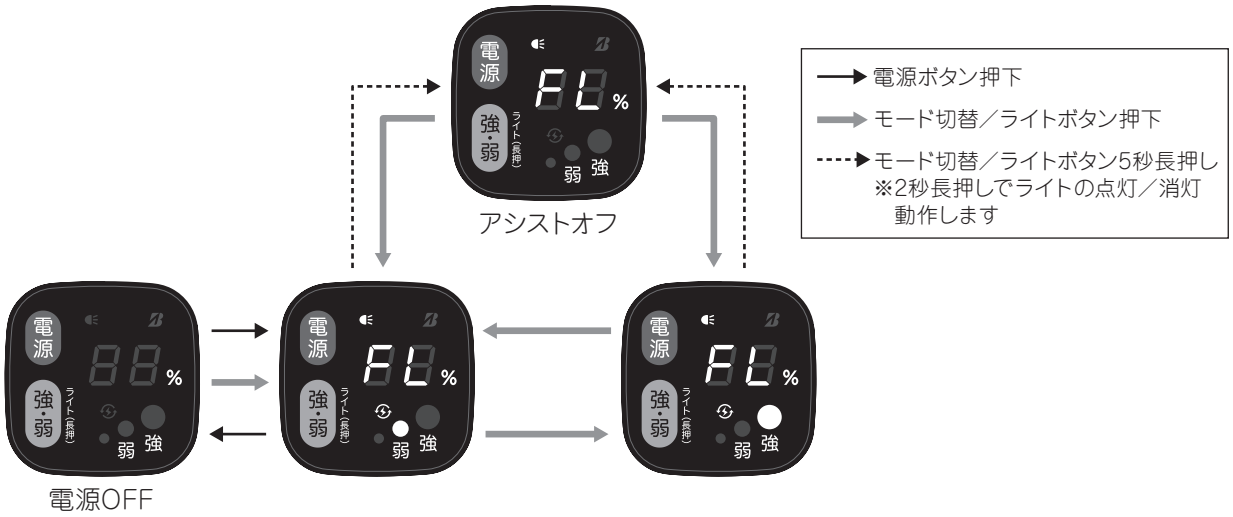
- 【モード切替／ライトボタン】を押すと〔弱〕→〔強〕の順で走行モードが切り替わります。
- 走行モードが〔強〕を表示しているときに【モード切替／ライトボタン】を押すと〔弱〕に切り替わります。
- 【モード切替／ライトボタン】を5秒以上長押しするとアシストオフモードに切り替わります。
  ※【モード切替／ライトボタン】を2秒押すとライトが動作（点灯／消灯）しますが、そのまま押し続けてください。
- 【電源ボタン】を1回押すと電源を切ることができます。

⚠警 告

ペダルに足を乗せたまま、メインスイッチの電源を入れないでください。

要 点

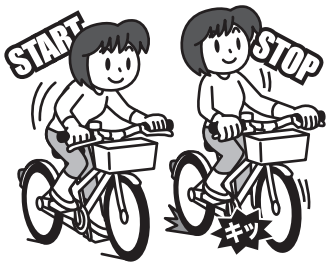
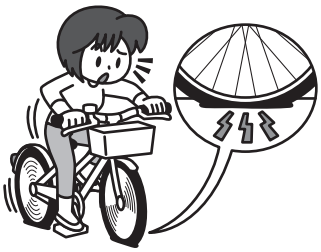
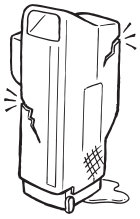
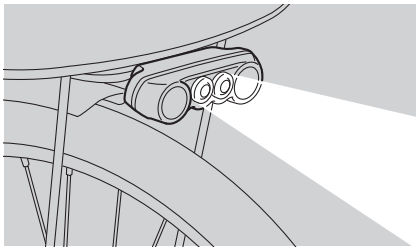
- 走行モードの切り替えは、走行中、停止中にかかわらずいつでもできます。
- 走行モードの切り替えとバッテリー残量表示の機能とは関係ありません。
- 電源を入れると、走行モードは〔弱〕で起動します。
- 電源オンは、【モード切替／ライトボタン】でもできます。
- アシストオフモードのときは走行モードランプは消灯します。
- アシストオフモードを起動すると、前照灯が点灯します。
- 自転車が停車した状態で、メインスイッチの操作と後ブレーキレバーの操作をおこなわずに3分経過すると、メインスイッチの回復量表示ランプが点灯し、それ以外のランプが消灯します。前照灯が点灯していたら、前照灯も消灯します。〔節電モード〕（P54）
- 節電モード作業中に、自転車を動かしたり、メインスイッチや後ブレーキレバーを操作したりすると、節電モードから復帰します。



走行モードについて

走行距離に影響を与える環境

以下の状況で走行した場合は、アシスト走行可能な距離が短くなる可能性があります。

 発進・停止の頻度が高い	 積載物が重い（多い）	 急坂の登坂
 走行する路面の状態が悪い	 強風	 低温時
 タイヤの空気圧が低い	 バッテリーの性能が 劣化している	 ライト（前照灯）が 点灯している

整備不良の場合にも、走行距離が短くなる可能性があります。
走行距離が短くなる整備不良の例：

- ベルトが滑らかに動いていない。
- 常時ブレーキが効いている。（引きずっている）

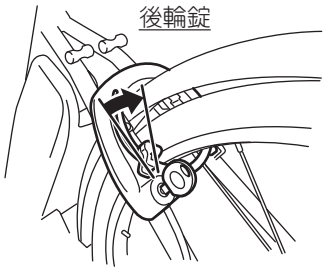
発進のしかた

乗る前に…

●電動アシスト自転車に乗る前は必ず乗車前点検を励行しましょう。
（乗車前点検の点検項目はP34～P38をご参照ください。）

1 **前輪鍵を開錠しましょう（P70）**

● 開城後、キーは前輪錠につけたまま走行します。

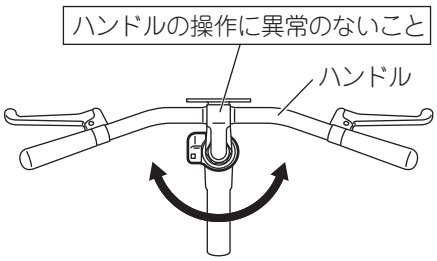


⚠警 告

バッテリーロックのキーは必ず抜いてください。

⚠注 意

走行中に車輪に巻き込まれやすいようなキーホルダーは付けないでください。



2 **ペダルに足をかけないでメインスイッチの【電源ボタン】を押して、電源を入れます。必要に応じて走行モードの切替をします。**

要 点

● 走行中等ペダルに踏力をかけた状態で電源を入れますと、アシストが弱くなる場合があります。そのまま使用していただくとアシストは自動的に回復しますが、ペダルに踏力が加わらない状態で自転車を少し押し歩きしていただいてももとに戻ります。

● メインスイッチの電源を入れても、自転車が停車した状態が5分間以上継続した場合、バッテリー消費を軽減するために自動的に電源が切れる機能を備えています。

【自動電源オフ機能】

但し、ペダルに踏力がかかっていない状態であっても、メインスイッチの操作をしたり、後ブレーキレバーの操作をしていれば電源は切れません。

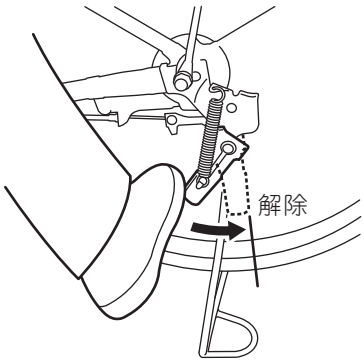
● 自動電源オフ機能が作動した後でもメインスイッチの【電源ボタン】または、【モード切替／ライトボタン】を押すと、再び電源が入ります。

● メインスイッチの電源が切れている状態で【モード切替／ライトボタン】を押しても、電源が入ります。

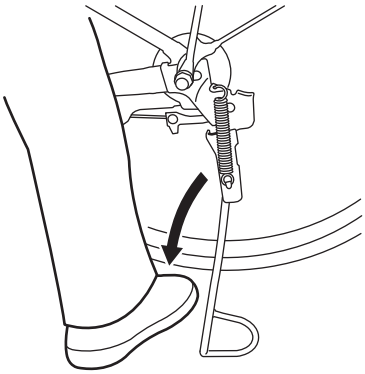
3 **スタンドをはね上げます。**

スタンドのはね上げ方

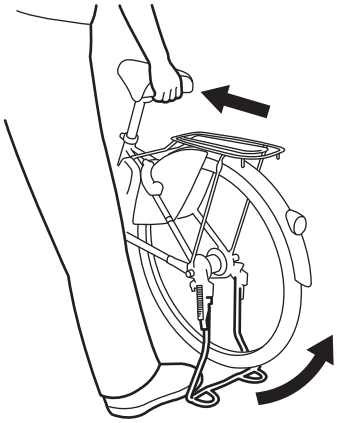
① 両手で自転車を支え、ロックレバーを足で後へ押して、ロックを解除します。



② 解除したら、必ずロックレバーから足を離します。

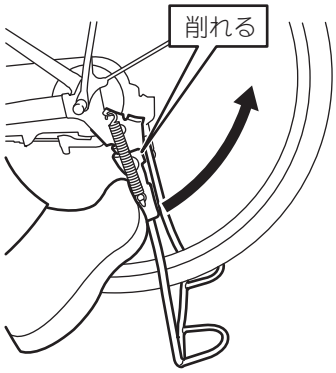


③ スタンド下部を足で押さえて自転車を前へ押し、スタンドをはね上げます。



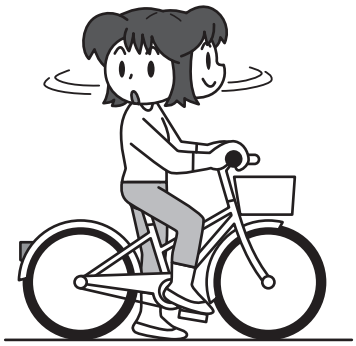
⚠注 意

- **後輪錠を開錠してから、スタンドをはね上げて（解除）ください。**
  施錠したまま自転車を動かすと、カンヌキがスポークやバルブとぶつかり、破損するおそれがあります。
- **ロックレバーを押しながらスタンドをはね上げないでください。**
  部品が削れてくぼみができ、動きが悪くなるおそれがあります。



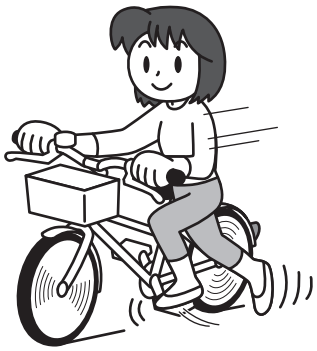
発進のしかた

4 **サドルに座り、ペダルに片足を乗せて発進の準備をします。走り出す前に前後左右の安全を確かめ、発進の合図をしてからペダルをゆっくりと踏み込みます。**
電動アシストシステムはペダルを踏み込むと瞬時に作動します。走行中（電動アシスト及び回復充電機能の作動中）はモーターが作動しているため、モーター音が発生します。



⚠警 告

- **けんけん乗り（片足をペダルに乗せて助走し、反動をつけてサドルに座る乗りかた）はしないでください。転倒や接触によって怪我をするおそれがあります。**



- **空き地や公園などでよく練習し、電動アシストシステムを使用しての走行に十分に慣れてから一般道路でお乗りください。また、電動アシストシステムを使用しての走行に十分に慣れるまでは「弱モード」を使用することをおすすめします。**

弱モード

要 点

発進時に瞬間的にペダルが重く感じた場合は、スリップ制御機能が作動している可能性があります。スリップ制御機能についてはP62をご参照ください。スリップ制御が作動しているときはメインスイッチのバッテリー残量表示に“SL”が3秒間早点滅（0.2秒間隔）をします。

バッテリー残量表示に
“SL”が3秒間早点滅
〈0.2秒間隔〉

変速のしかた

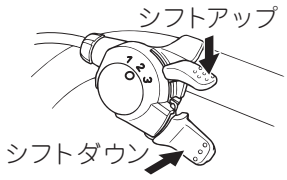
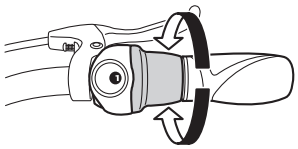
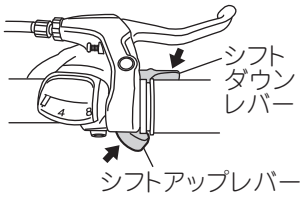
変速機の使い方

変速機は、「走る速さ」や「坂道」「風向き」などの走行条件の変化に応じてギヤ比を変え、ペダルの踏む速さと重さを一定にして、疲れを少なくすることができます。

変速グリップの使いかた

1 **走行中の場合は、ペダルをこぐ足を止めます。**

2 **変速グリップは主に３種類あります。主なシフトレバーの操作方法は次の通りです。**

変速機の種類	内装3段	内装3段 内装5段 内装8段	内装8段
シフトレバーの種類と操作方法	ダブルレバーA型  	グリップシフター型 	ダブルレバーB型 

⚠警 告

- **交通量が少ない場所など安全な状況で操作するようにしてください。**
- **走行中に変速グリップの操作を行う場合は、変速グリップの操作に気をとられて、前方不注意にならないように注意してください。**

要 点

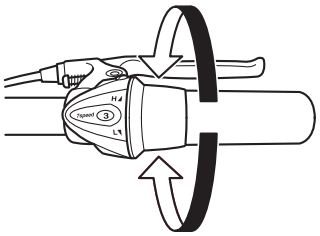
- ペダルをこいでいる状態では変速グリップを操作しても変速できないことがあります。無理に変速グリップを操作すると、異音がしたり変速装置が故障する場合があります。上り坂の手前で変速するようにしましょう。
- 空き地や公園などで充分に練習し、変速操作に慣れておきましょう。

道路状況に合わせて早めに変速することを心がけ、適切なシフト位置で走行するようにしましょう。

変速のしかた

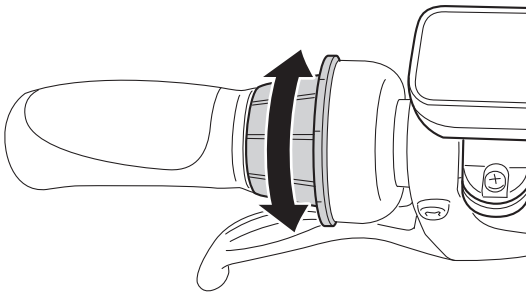
適切なシフト位置

下表は、あくまで参考です。

走行状況の例 （ギヤの重さ）		スタート時、低速走行時、 上り坂、向かい風 （軽くしたいとき） ←							高速走行時、 下り坂、追い風 （重くしたいとき） →
シフト位置 （シフトレバーの表示） 	**3段**	軽 1（スタート）			中 2				速 3
	5段	1		2		3		4	5
	8段	1	2	3	4	5	6	7	8

グリップ式ベルの使い方（グリップ式ベル装着車のみ）

グリップ式ベルはハンドルの左側に装着されています。
グリップを回すとベルが鳴ります。



前照灯について

オートライトシステム（前照灯の自動点灯・自動消灯）

電動アシスト自転車はオートライトシステムを装備しています。
照度センサーが周囲の明るさ（照度）を検出し、前照灯が自動で点灯・消灯します。前照灯が点灯しているときは、ライト点灯ランプも点灯します。

⚠警 告

前照灯が点灯した状態でのアシスト走行中にバッテリー残量が減少すると、まずアシスト走行ができなくなり、その後しばらくしてから前照灯も消灯します。
走行開始前にバッテリー残量が十分にあることをご確認の上ご使用ください。

⚠注 意

前照灯の左右角度は調整することができません。無理に調整しようとして曲げたりすると破損の原因となります。

要 点

- 照度センサーについた汚れはこまめにふき取ってください。照度センサー部が汚れていると、周囲の明るさ（照度）を検出しにくくなり、周囲が明るくても前照灯が点灯することがあります。
- 照度センサーをカバーなどで覆うと、周囲の明るさ（照度）を検出できないため、オートライトシステムが正常に作動しません。
- 前照灯が点灯しているときに【モード切替／ライトボタン】を長押しするか、【電源ボタン】を押し電源を切ると、前照灯は消灯します。
- 電源が切れているときは、オートライトシステムは作動しません。
- アシストをオフにした状態で前照灯を使用して走るときや、押し歩きをしながら前照灯を使用するときは、電源を切らずに走行モードをアシストオフモードに切り替えてください。
- 前照灯の取付角度を上下に調整する必要がある場合は、販売店にご相談ください。
- アシストオフモードを起動させた場合、メインスイッチの電源を切り、再度電源を入れるまでオートライトシステムは無効になります。
- 前照灯が点灯しているときに節電モードが起動すると、前照灯は消灯します。

前照灯について

前照灯の手動操作

【モード切替／ライトボタン】を押すたびに、前照灯の点灯と消灯を切り替えることができます。前照灯が点灯しているときは、ライト点灯ランプも連動して点灯します。

⚠警 告

前照灯が点灯した状態でのアシスト走行中にバッテリー残量が減少すると、まずアシスト走行ができなくなり、その後しばらくしてから前照灯も消灯します。走行開始前にバッテリー残量が十分にあることをご確認の上ご使用ください。

要 点

- 手動操作で前照灯を点灯または消灯させた場合、および、走行モードをアシストオフモードに切り替えた場合、メインスイッチの電源を切り、再度電源を入れるまでオートライトシステムは無効になります。
- 前照灯が点灯しているときに【モード切替／ライトボタン】を押すか、【電源ボタン】を押して電源を切ると、前照灯は消灯します。
- 電源が切れているときに【電源ボタン】又は【モード切替／ライトボタン】を押すとメインスイッチの電源が入り、オートライトシステムにより前照灯は作動します。
- アシストをオフにした状態で前照灯を使用しながら走るときや、押し歩きをしながら前照灯を使用するときは、電源を切らずに走行モードをアシストオフモードに切り替えてください。
- アシストオフモードを起動させた場合、メインスイッチの電源を切り、再度電源を入れるまでオートライトシステムは無効になります。
- 前照灯が点灯しているときに節電モードが起動すると、前照灯は消灯します。

メインスイッチの表示機能

自己診断機能

メインスイッチには、電動アシストシステムの自己診断機能を装備しています。
メインスイッチの電源を入れたときに電動アシストシステムに故障や異常があれば、バッテリー残量表示にエラー表示を行い異常をお知らせします。
異常表示・異常点滅の種類や対処方法については「メインスイッチが異常表示・異常点滅する」をご参照ください。
（P84）

メインスイッチのイベント表示機能

メインスイッチは車両の状態によりイベント表示をします。

スイッチの表示	車両の状態
E1～E6点灯	**エラー表示** ⇒電動アシストシステムに故障や異常が発生したときに表示します。異常表示・異常点滅の種類や対処方法については「メインスイッチが異常表示・異常点滅する」をご参照ください。（P84）
回復量表示ランプが点灯し、その他のランプが消灯	**節電モード表示** ⇒自転車が停車した状態で、メインスイッチの操作と後ブレーキレバーの操作をおこなわずに3分経過すると表示します。節電表示がでたときに前照灯が点灯していたら、前照灯が消灯します。
走行モードのランプが遅点滅〈0.8秒間隔〉（弱モードの場合）	**パワーセーブ表示** ⇒バッテリー、コントローラー、モーター等の温度保護制御機能が作動しアシスト出力を抑えているときに表示します。「ペダルが重い、アシストしない」をご参照ください。（P79）
“SL”が3秒間早点滅〈0.2秒間隔〉	**スリップ制御機能作動表示** ⇒スリップ制御機能が作動したときに表示します。スリップ制御機能についてはP62をご参照ください。

回復充電機能について

回復充電機能

電動アシスト自転車は回復充電機能を装備しています。回復充電機能とはモーターユニットを発電機として働かせることで走行中のエネルギーをバッテリーに戻す（充電する）機能です。
回復充電機能が作動すると電気的な制動力が発生します。

⚠注 意

回復充電機能が作動したときに発生する電気的な制動力だけでは停止することはできません。停止をするときは、必ず前後のブレーキを併用し、後ブレーキを先にかけてから前ブレーキをかけてください。

回復充電機能の種類

回復充電機能は3種類の機能があります。

- **ブレーキ回復充電機能**
  後ブレーキのレバーを握ったときに、モーターユニットがブレーキ信号を検出して作動します。
- **平地自動回復充電機能**
  走行中にペダルを漕がないと自動で作動します。
- **下り坂自動回復充電機能**
  ペダルを漕いでいない状態で、自転車の速度が上がると自動的に作動します。

要 点

〈回復充電機能共通〉

- 電源が切れているときは、回復充電機能は作動しません。
- バッテリーが満充電のときは回復充電機能は作動しません。また、満充電から少し減った状態では回復充電機能が弱くなる場合があります。
- バッテリー内部の温度が著しく低いもしくは高い場合は、バッテリーの保護のため回復充電機能は作動しません。
- 自転車の速度が低速もしくは高速で走行している場合は、回復充電機能が作動したときに発生する制動力は弱くなります。
- 回復充電機能の能力（制動力）は以下の通りです。
  ブレーキ回復充電機能＞下り坂自動回復充電機能（強）＞下り坂自動回復充電機能（弱）＞平地自動回復充電機能

〈ブレーキ回復充電機能〉

- ブレーキ回復充電機能は、前ブレーキのレバーを握っても作動しません。

回復充電機能について

回復充電機能の種類（つづき）

〈平地自動回復充電機能〉

- 平地自動回復充電機能は、通常、作動中にペダルを踏み込むと待機状態になり、その状態から漕ぐことをやめると再び作動します。ただし、ペダルを力をかけず漕ぐ（逆回転含む）ことで、機能を停止させることができます。
  ※乗り方で意図的に制動力を働かなくさせることができます

  ペダルを踏み込んで乗る場合
  漕ぐことをやめる（作動）⇒踏み込む（待機状態）⇒漕ぐことをやめる（作動）

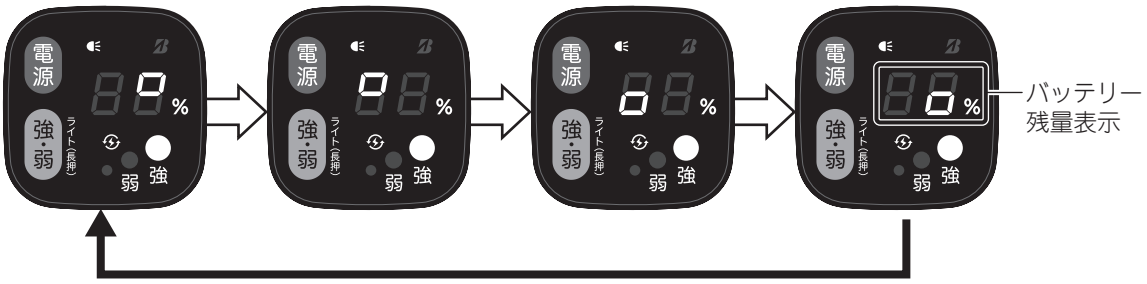
  ペダルに力をかけず漕ぐ場合
  漕ぐことをやめる（作動）⇒力をかけず漕ぐ（機能停止）⇒漕ぐことをやめる（機能停止継続*）
  ＊機能停止が継続した場合、走行中、止まった状態問わず、ペダルを踏みこむか、後ブレーキレバーを握ってください。再び平地自動回復充電機能が作動する待機状態になります。
- 8km/h以下の走行では、ペダルを漕がなくても待機状態となり、作動しません。

〈下り坂自動回復充電機能〉

- 下り坂自動回復充電機能は下り坂での速度の出しすぎを抑制する機能になります。
  平地での惰性走行時は作動しません。
- 下り坂を走行中の場合でも、ペダルをこいでいるときは下り坂自動回復充電機能は作動しません。

回復充電機能の表示

回復充電機能が作動すると、メインスイッチのバッテリー残量表示が以下の表のように表示します。



⚠警 告

走行中はメインスイッチの表示に気をとられ前方不注意により、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

回復充電機能について

回復量表示について

回復充電機能が作動して、一定量以上（平地を走行していて停止する）の電気が回復された場合、メインスイッチの回復量表示ランプが点灯します。

- 充電された電気は、電動アシスト自転車のアシスト駆動に使用して消費されると消灯します。長く回復充電機能が作動して多くの電力が充電されれば、回復量表示ランプはその分長く点灯します。
- 回復量表示ランプが点灯中にメインスイッチの電源を切った場合、充電された電力量の情報は保存され、電源を入れなおしたときに回復量表示ランプが点灯します。

要 点

回復充電機能が作動しない状態では回復量表示機能は使用できません。回復充電機能が作動しないのは以下の状態です。

- 電源が切れているとき
- バッテリーが満充電のとき
- バッテリー内部の温度が著しく低いもしくは高いとき

回復率について

この電動アシスト自転車には、回復充電機能の効果を確認する目安として回復率※1をメインスイッチに表示する機能があります。

※1　回復率とは電源を入れてから電源を切るまでの間にアシスト駆動に使用した電力と回復充電機能で充電された電力の比率（0～99%）となります。

$$\text{回復率（0～99\%）} = \frac{\text{回復充電機能で充電された電力（Wh）}}{\text{アシスト駆動で使用した電力（Wh）}} \times 100\text{（\%）}$$

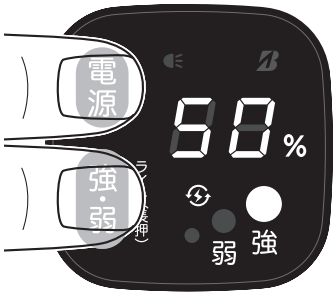
回復率の表示方法について

回復率を表示する場合の手順を説明いたします。

1　**メインスイッチの電源をONにして、通常走行をしてください。**

回復充電機能について

2 走行終了後、に回復率を確認したいときは、【電源ボタン】と【モード切替／ライトボタン】を同時に5秒間長押しします。



3 今回の走行における回復率がバッテリー残量表示に表示されます。（0～99%）

4 この状態で【モード切替／ライトボタン】を押すことで、1回前、2回前、3回前までの回復率の履歴をメインスイッチのバッテリー残量表示で確認することができます。一定時間、【モード切替／ライトボタン】の操作がなければ、メインスイッチの表示は通常に戻ります。

⚠注 意

ボタン操作は、必要以上に長時間押し続けたり、途中放置しないでください。
操作エラーになる可能性があります。

要 点

回復率を計測する期間内に回復充電機能が作動しない状態があった場合、回復率が低くなる傾向がありますが故障ではありません。なお回復充電機能が作動しないのは以下の状態です。

- 電源が切れているとき
- バッテリーが満充電のとき
- バッテリー内部の温度が著しく低いもしくは高いとき

回復充電機能について

回復充電機能の設定について

本電動アシスト自転車は自動で作動する回復充電機能を設定により変更できます。各モードにより回復充電機能が作動したときの制動力の強さがことなりますので、電動アシスト自転車の使用環境に応じて、設定を変更してください。

モード	回復充電機能	お勧めの環境
1	平地自動回復充電機能 下り坂自動回復充電機能（弱）	市街地や、平坦な道が多い環境
2	下り坂自動回復充電機能（弱）	平坦な道が多い環境
3	下り坂自動回復充電機能（強）	坂道や、長い下り坂が多い環境

自動回復充電機能	制御力
平地自動回復充電機能	微弱
下り坂自動回復充電機能（弱）	弱
下り坂自動回復充電機能（強）	強

要 点

- 出荷時の設定は【1】にしています。
- 後ブレーキレバーを操作したときの【ブレーキ回復充電機能】が作動したときに発生する制動力には反映されません。

⚠注 意

回復充電機能が作動したときに発生する電気的な制動力だけでは停止することはできません。停止をするときは、必ず前後のブレーキを併用し、後ブレーキを先にかけてから前ブレーキをかけてください。

回復充電機能について

回復充電機能の設定変更の方法について

回復充電機能の設定を変更する場合の手順を説明いたします。

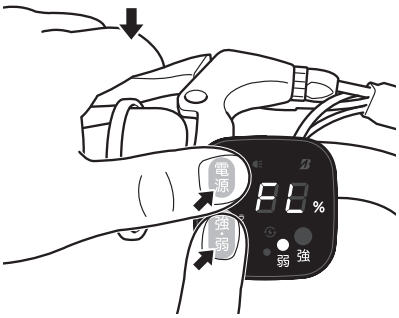
⚠注 意

必ず電動アシスト自転車が停止し、ペダルが回転していない状態で実施してください。

1 メインスイッチの電源をOFFにしてください。

2 メインスイッチの電源を入れてください。
【電源ボタン】、もしくは【モード切替／ライトボタン】を押して指を放します。

3 [後ブレーキレバー]を握りながら、【電源ボタン】と【モード切替／ライトボタン】を同時に3秒間長押しをします。



バッテリー残量表示に“1”か“2”または“3”が表示されます。

⚠注 意

初期は「モード１」に設定しています。

回復充電機能について

4 **この時のバッテリー残量表示が、回復充電機能の設定モードを表しています。**

バッテリー残量表示	回復充電機能の設定
	平地自動回復 ＋ 下り坂自動回復充電　弱モード
	下り坂自動回復充電　弱モード
	下り坂自動回復充電　強モード

- 【モード切替／ライトボタン】を押すことで、回復充電機能の設定モードの切り替えができます。
- 設定モードの切り替えが完了したら【電源ボタン】を押してください。
  設定モードが決定され電源がOFFになります。

⚠注 意

- **バッテリー残量表示に1、2、3のいずれかが表示されない場合は、いったん電源をOFFにしてから、最初からやり直してください。**
- **指示されたボタン以外は押さないでください。**
- **ボタン操作は、必要以上に長時間押し続けたり、途中放置しないでください。操作エラーになる可能性があります。**
- **回復充電機能が作動したときに発生する電気的な制動力だけでは停止することはできません。**
  停止をするときは、必ず前後のブレーキを併用し、後ブレーキを先にかけてから前ブレーキをかけてください。

スリップ制御機能について

本電動アシスト自転車はスリップ制御機能を装備しています。スリップ制御機能とは、前輪の空転を検出した瞬間にアシスト力を抑えることで、前輪の空転を抑制する機能です。
マンホールやアスファルトのつなぎ目などの滑りやすい路面や、小石や砂が集まりやすい車道脇など路面が急に変化したときに、前輪が空転すると転倒の危険がありますが、前輪の空転を抑制することでスリップを防止します。

⚠警 告

- **スリップ制御機能は前輪の空転を抑制するもので、スリップの発生を完全に防止するものではありません。**
- **積雪や凍結した道、濡れている鉄板やマンホール、ぬかるみ、歩道の点字ブロックなど滑りやすいところでは自転車から降りて、押して歩くようにしてください。**

要 点

- 電源が切れているときはスリップ制御機能は作動しません。
- 発進時や走行時に瞬間的にペダルが重く感じた場合は、スリップ制御機能が作動している可能性があります。

スリップ制御機能の表示

スリップ制御機能が作動すると、バッテリー残量表示に“SL”が3秒間速い点滅（0.2秒間隔）をします。

“SL”が3秒間速い点滅
（0.2秒間隔）

自動点滅ソーラーテールライトの取り扱い

自動点滅ソーラーテールライトの特徴

- センサーが明るさと振動を感知し、夜間走行時に自動点滅します。
- 太陽電池により内蔵充電池を充電します。
- 静止後も約１分間点滅し続けるため信号待ちなどの停車中も安心です。

ご使用の前に

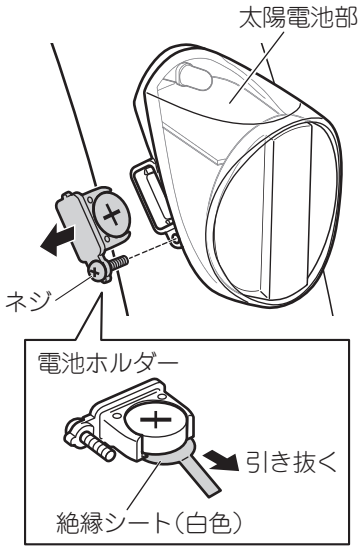
初めて使用する際は、下記を実施してください。

- ネジをゆるめ電池ホルダーを取り外してから、絶縁シート（白色）を取り除いてください。（右図）
- 絶縁シートを引き抜いた後、元通り電池ホルダーを本体に取り付け、ネジを締め付けてください。
（推奨締付トルク：0.12〜0.15N・m）

要 点

はじめに日光下で充電してから使用してください。

絶縁シートの取り外し方



太陽電池について

自動点滅ソーラーテールライトは太陽電池で内蔵充電池を充電します。

⚠注 意

太陽電池部を覆ったり、暗い所へ自転車を置いておくと、充電できずに自動点滅しない場合があります。日光に当て、充電すると元に戻ります。

自動点滅ソーラーテールライトの取り扱い

お手入れ

レンズについた汚れはこまめに拭き取ってください。レンズの汚れがひどい場合は水もしくは中性洗剤の水溶液を布にしみこませてから拭き取ってください。

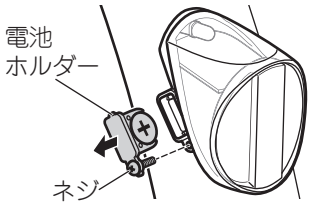
要 点

自動点滅ソーラーテールライトは暗くなって振動を感知すると自動的に点滅します。通常明るい時は点滅しませんが、レンズの汚れがひどいと光センサー受光部に光が届きにくくなるため、明るい昼間でも点滅することがあります。また太陽電池の充電効率も悪くなります。

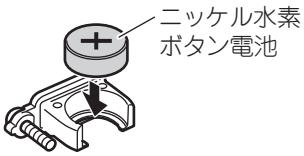
充電池の交換

太陽光を充分に当てても自動点滅しない場合は充電池の寿命です。次の手順で交換します。

1 ネジを空回りするまでゆるめて電池ホルダーをまっすぐ引き抜く。



2 充電池を交換する。



3 電池ホルダーを差込み、ネジを締め付ける。
（推奨締付トルク：0.12～0.15 N・m）

充 電 池：ニッケル水素ボタン電池（GP40BVH）
太陽電池：単結晶ソーラーセル
点滅時間：約8時間（直射日光下2時間放置後満充電時・連続点滅）

⚠ 警 告

- **充電池を交換する際は＋－を正しく入れてください。**
- **指定以外の電池は使用しないでください。**
- **使用済みの充電池は誤って飲み込まないように管理し、定められた方法で処理してください。**
- **寿命の充電池はライトに入れたまま放置しないでください。**
- **保管の際は半年に1回は日光に当て充電してください。充電せず長期間、または高温下で放置すると電極が劣化し、液漏れを起こす恐れがあります。**

荷物の積載

荷物の積みすぎには注意しましょう。

本電動アシスト自転車の最大積載重量（乗員の体重と積載重量の合計）は90kgです。また、フロントバスケットおよびリヤキャリヤそれぞれの最大積載重量と積載物の大きさの限度は下表のとおりです。
荷物を積みすぎるとアシスト走行時にバッテリーに過大な負荷をかけてしまいアシスト走行可能な距離が短くなる可能性があります。また、常に重い荷物を積んだ状態で走行しているとタイヤなどの部品の消耗が早くなる場合があります。

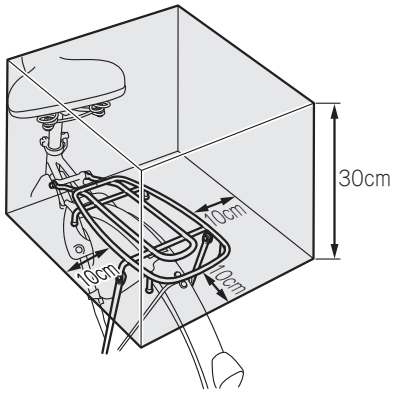
● 荷物の積載条件

●荷物の重量

最大積載重量	フロントバスケット	3kgまで（荷物のみ積載可能）
	リヤキャリヤ	リヤキャリヤに表示の最大積載重量以下 ※バスケットを装着する場合 バスケットの重量と荷物の重量の合計が最大積載重量以下でご使用ください

●荷物の大きさ

大きさの限度	フロントバスケット	バスケット内に収まる大きさまで	
	リヤキャリヤ	幅	リヤキャリヤの左右それぞれ10cmまで
		長さ	リヤキャリヤの後端から10cmまで
		高さ	リヤキャリヤ積載面から30cmまで



⚠警 告

- **荷物の積みすぎは走行安定性を著しく低下させ危険です。また、フロントバスケット、リヤキャリヤ等からはみ出した荷物は他の歩行者や自転車、自動車などに接触するおそれがあるので危険です。最大積載重量および積載物の大きさの限度をこえないようにしてください。**
- **フロントバスケットまたはリヤキャリヤに荷物を積むときは、左右のバランスをとって積んでください。また、荷物がずれたり動いたりしないよう、しっかりと固定してください。荷物が動くと走行が不安定になり、転倒などの事故につながるおそれがあります。**
- **リヤキャリヤに荷物を積む時は、固定用のひも・ベルトでしっかりと固定し、ひも・ベルトがたるまないようにしてください。（車輪への巻き込み防止）**
- **個人差があるため、表に記載の積載条件内の場合でも、運転に不安を感じた場合は、そのまま使用しないでください。**

リヤチャイルドシートの装着について

● **フロントチャイルドシート（前用幼児用座席）**
この自転車にはフロントチャイルドシートは取り付けできません。

● **リヤチャイルドシート（後用幼児用座席）**
この自転車にはチャイルドシートは取り付けできません。

⚠警 告

● **標準装備よりも大きな容量のリヤキャリヤに取り替えても、自転車の積載条件は表記のとおりです。表記条件を超える、荷物を積載したりお子様を同乗させると、走行安定性が損なわれ、転倒・事故を起こす恐れがあります。表記の内容を超えないでください。**

アシストが作動しない環境

こんなときは電動アシストシステムは作動しません。

- 走行速度が時速24km/h以上の場合

- ペダルをこいでいないとき

- バッテリー残量がなくなったとき
  （メインスイッチのバッテリー残量表示が0（ゼロ）を早点滅することでお知らせします。）

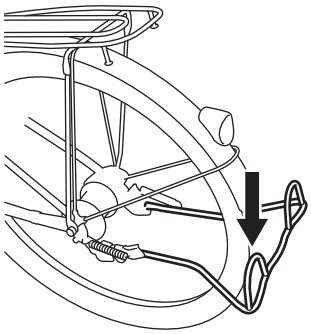
- メインスイッチの電源を入れても、自転車を停車した状態が5分以上継続したとき。【自動電源オフ機能】
  ※ただし、自転車が停止した状態であっても、メインスイッチの操作をしたり、後ブレーキの操作をしていれば電源は切れません。
  ※自動電源オフ機能が作動した後でもメインスイッチの【電源ボタン】または【モード切替／ライトボタン】を押すと、再び電源が入ります。

- ブレーキ回復充電機能が作動しているとき。

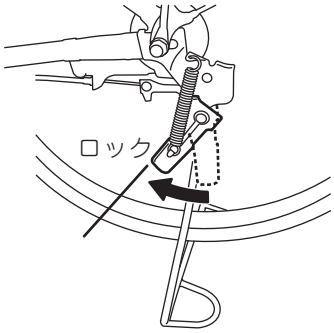
駐輪のしかた

1 **自転車を停車させます。**
自転車が完全に停止してから、ブレーキを握ったままゆっくりと降車し、平坦で安定のよい場所に自転車を停車させます。
サドルまたはリヤキャリヤをもってスタンドを立て、ロックをかけます。

スタンドの立て方
① 両手で自転車を支え、足で矢印の部分を踏むようにスタンドを立てます。



② スタンドが立ち、自動的にロックがかかります。



⚠警 告

- **駐輪するときは、平坦で硬い路面に駐輪してください。また、駐輪後に自転車から離れるときは、自転車が安定して動かないことを確認してください。**
- **傾いた路面や、砂利などの柔らかな路面に駐輪すると、自転車が動き出したり、転倒したりして事故につながるおそれがあります。**

⚠注 意

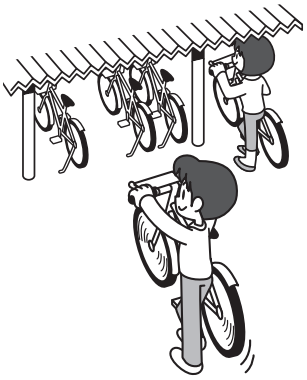
- **走行直後のブレーキドラム部に手を触れないでください。ブレーキを頻繁に使用した場合、ドラム部が高温になることがあります。**
- **スタンドを立てたら、必ずロックレバーがかかっていることを確認してください。**
- **自転車ラック（駐輪ラック）へ駐輪する場合は、駐輪レーン上の車輪止めの形状によって、前輪のモーターが車輪止めに接触し、モーターが変形したり破損するおそれがあります。接触する場合は、駐輪レーン付自転車ラックのご利用はお控えください。**

2 **メインスイッチの電源を切ります。**
メインスイッチの【電源ボタン】を1秒以上長押して、電源を切ります。

3 **後輪錠を必ずかけるようにしましょう。**
駐輪時には、盗難を防ぐために必ず後輪錠をかけるようにしましょう。

要 点

駐輪するときは必ず決められた場所へ



- 駐輪するときは、歩行者、自転車、自動車の迷惑にならない場所を選びましょう。
- 駐輪禁止の場所には停めてはいけません。
- 駐輪時は盗難を防ぐため、必ず後輪錠をかける習慣をつけましょう。
- 後輪錠の予備キーは、大切に保管してください。

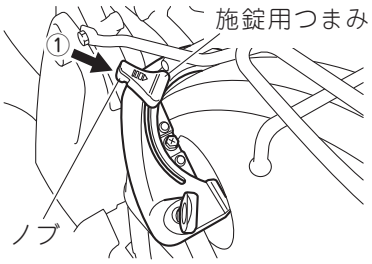
駐輪するときはメインスイッチの電源を切ってください

- メインスイッチを切り忘れると、バッテリーの放電を早めることになります。
  次に乗車するときにバッテリー残量が不足して電動アシストシステムが作動しない場合があります。

後輪錠の使いかた

かけかた

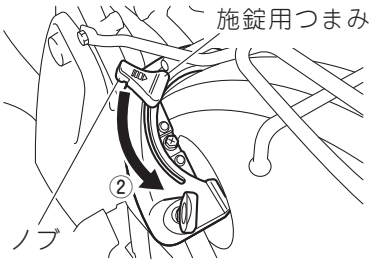
1 施錠用つまみのノブを①の矢印の方向へ押します。



2 ノブを押しながら、施錠用つまみを②の方向へ「カチッ」と音がするまで押し下げてロックします。

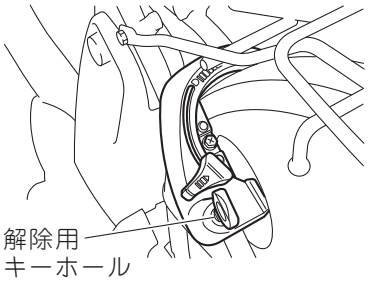
要 点

施錠後はキーを抜き取りましょう。



解除のしかた

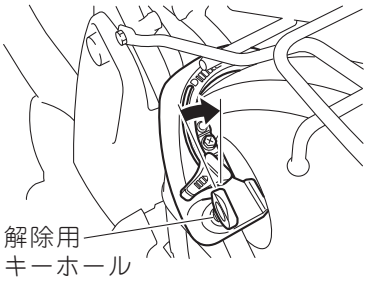
1 キーを解除用のキーホールに差し込みます。



2 ロックが解除される（施錠用つまみが上がる）まで、キーを右にひねります。

要 点

解除したらキーは抜けません。キーを付けたまま走行してください。



⚠注 意

後輪錠を施錠したまま、スタンドを上げたり、自転車を無理に動かさないでください。後輪錠やスポークが破損するおそれがあります。

スペアキーについて

強 制

スペアキーは大切に保管してください。また、キーNo.は控えてください。（スペアキーをご注文する時にキーNo.が必要になります）

カーボンソリッドドライブについて

本電動アシスト自転車にはカーボンソリッドドライブを採用しています。
カーボンソリッドドライブは伸びの少ない高強度なベルトを使用しており、ダイレクトなペダリングを可能にした駆動システムです。
その特性上、従来のチェーン車、ベルト車（「フローティングベルト」「スマートベルト」）と取り扱いが異なります。
点検及びお手入れをする場合は以下の手順で行ってください。

点検のしかた

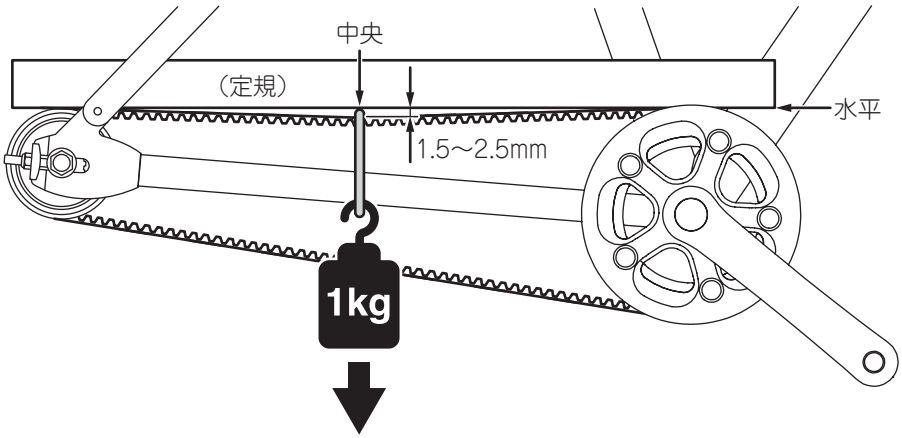
カーボンソリッドドライブは工場出荷時に調整されていますが、以下に従ってベルトの張りの点検をしてください。
ベルトの張りが弱いときは販売店に調整を依頼してください。

要 点

ベルトの中央部を1kgの力で押したときベルトのたわみが1.5～2.5mmのたわみであること。

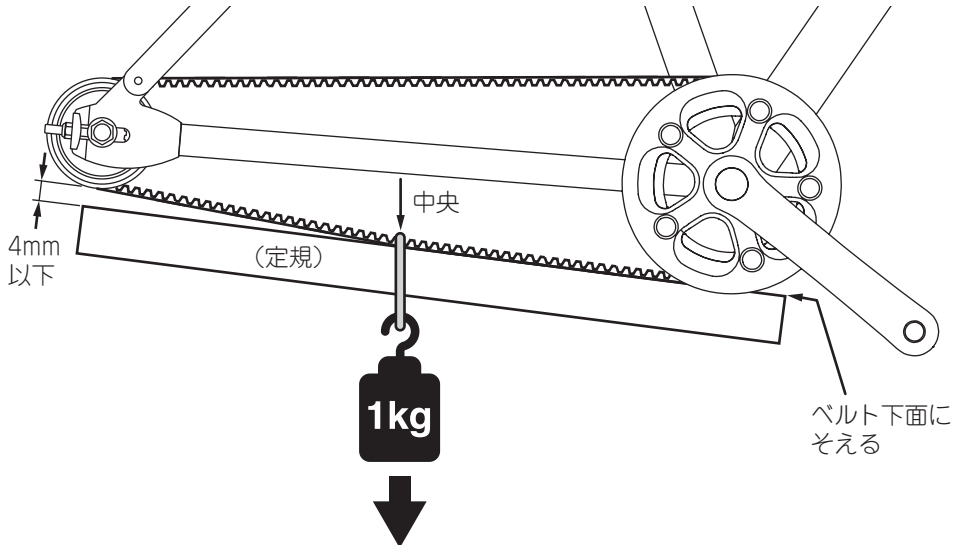
1 **ベルトのたわみの測り方（例1）ベルトケースを取り外す場合**

① ベルトの上面が水平になるようにして、前後プーリ間中央に1kgの重り（500mlペットボトル2本等）を掛ける。
② ベルト上面に定規（直線な物）を渡し、ベルト上面と定規の隙間を測る。



2 ベルトのたわみの測り方（例2）ベルトケースを取り外さない場合

下側ベルトの前後プーリ間中央に1kgの重りを掛ける。ベルト下面前側に定規（直線な物）を渡し、後プーリと定規隙間が4mm以下であること。



⚠注 意

- **カーボンソリッドドライブは従来型ベルト（「フローティングベルト」「スマートベルト」）のたるみ量とは異なります。**
- **ベルトの張りが弱いと歯飛びを起こしやすくなり、ベルトの寿命低下のおそれがあります。クランクの回転が重く感じられても、ベルトの張りを基準以下に緩めないでください。**
- **ベルトの張りが強いため、手でクランクを回すと回転が重く感じられます。これはカーボンソリッドドライブ特有の現象で異常ではありません。**

お手入れのしかた

各部のお手入れ

⚠注 意

電動アシスト自転車は日常防水に対応していますが、スチームや水道ホースによる洗車など直接水圧がかかる洗車方法は、電動アシストシステム部やバッテリー部の隙間から内部構造へ浸水し故障の原因となるので避けてください。もし、電動アシストシステム機構が水に浸かった場合は、購入したお店で点検を受けてください。

● **金属部のお手入れ**

金属部（スポークなど）は、先に防錆剤を含ませた状態の布でふきます。

⚠警 告

お手入れの際に、防錆剤やワックスなどの油脂類をブレーキ制動面やタイヤ、リムなどに付着させないように注意してください。油脂類が付着するとブレーキの制動力が低下し、事故につながる危険があります。

● **フレームなどの金属塗装部のお手入れ**

金属部分の塗装面は、汚れをきれいに落としてから乾いたタオルにワックスを少量なじませてからみがきます。油分の付着は光沢感をそこなうため、塗装部にはつけないよう注意してください。

⚠注 意

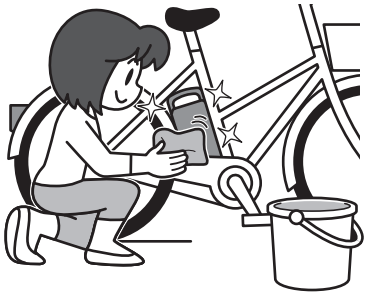
お手入れの際、ゴム類（タイヤ・ブレーキシューなど）に、絶対にワックスを付着させないでください。ワックスがタイヤ等のゴム類に付着するとヒビ割れの原因となり危険です。

● **バッテリー部のお手入れ**

バッテリーケースは、水を固く絞ったタオルで汚れをふき取ります。ホース等から放水した水を直接かけないでください。

⚠注 意

お手入れの際、故障の原因となるため、金属の接点をヤスリで研磨したり、針金などを用いて掃除しないでください。



各部のお手入れ（つづき）

● **バッテリーや樹脂カバー類のお手入れ**

バッテリーやカバー等の樹脂部分の汚れは、水を固く絞ったタオルなどでしっかりと拭き取ります。
また、バッテリー差込口にゴミやホコリがある場合は、乾いたやわらかい布で拭き取ってください。

⚠ 注 意

お手入れの際、ガソリン、灯油、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などはヒビ割れなどの原因になるので付着させないでください。

● **ベルトのお手入れ**

ベルト、前後のプーリーに付着した泥や汚れを拭き取ってください。泥や汚れの付着は異音や磨耗の原因となります。
長く使用しているとベルトの歯面に白い繊維が露出してきますが、異常ではありません。

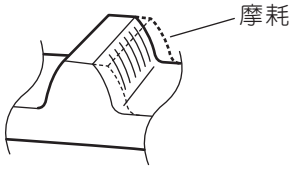
⚠ 注 意

- **汚れをふき取るときはフレームや部品の角に注意してください。ぶつけたり引っかけたりしてけがをするおそれがあります。**
- **クリーナーや洗浄剤を使用しないでください。ベルトのひび割れ、変色、変形の原因となります。**

● **ベルト、プーリーの交換の目安**

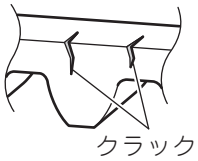
ベルト、プーリが下図のような状態になったら、交換してください。

• ベルト歯面の磨耗

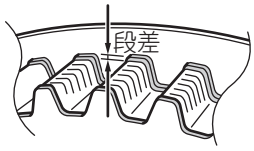


• ベルト歯面のクラック

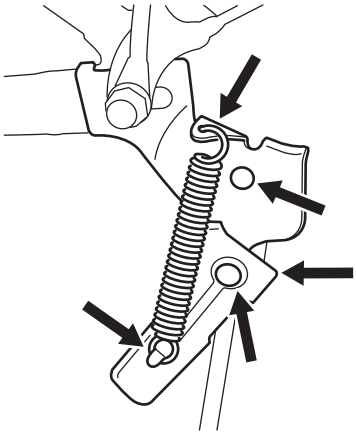
• ベルト背面のクラック



• プーリ歯面の磨耗



各部のお手入れ（つづき）



● **スタンドのお手入れ**

矢印の部分に定期的に注油を行い、スタンドのロック動作を確認するようにしてください。

⚠注 意

泥やほこりが付着したり、油が切れてきますと、自動ロックなどの動作が鈍くなることがあります。

● **充電器のお手入れ**

充電器表面は、鏡面加工で傷つきやすいため、布で軽く空拭きしてください。

お手入れのしかた

⚠警 告

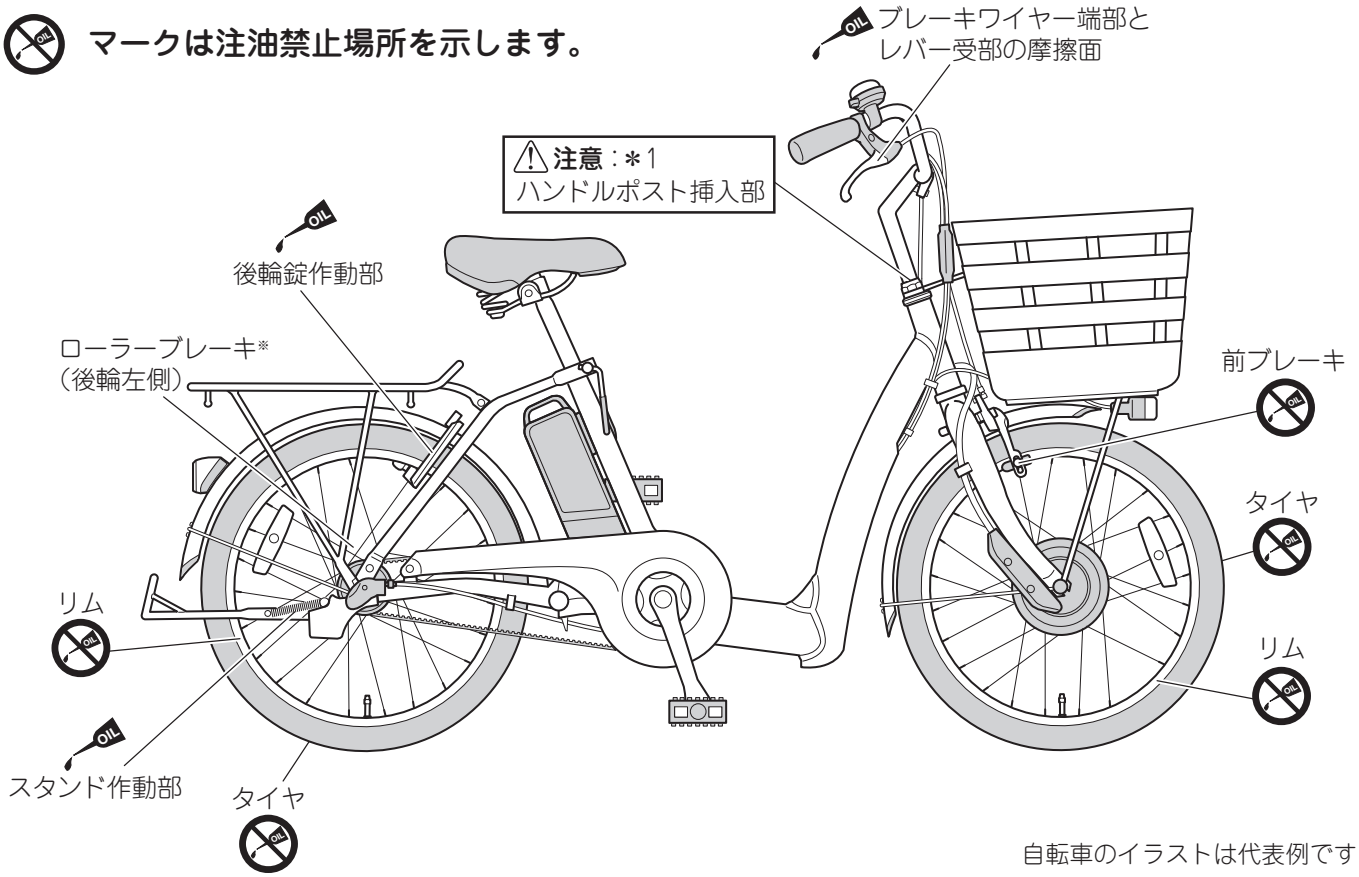
ブレーキの制動面やタイヤ、リムには注油しないでください。ブレーキが効かなくなり、衝突・けがのおそれがあります。

⚠注 意

- **注油は決められた場所に少量を注油します。多すぎると、ホコリを付着させ、故障の原因になります。**
- **注油は自転車用油を使用してください。食用油は使用しないでください。**

マークは注油場所を示します。

マークは注油禁止場所を示します。



自転車のイラストは代表例です

※ローラーブレーキは販売店で専用グリスの補給が必要です。（P86）

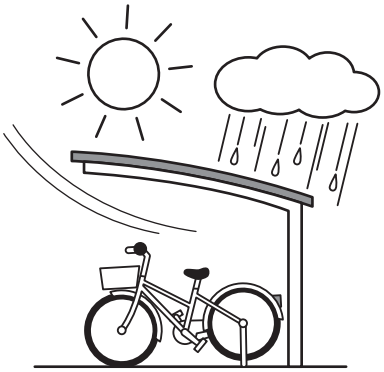
⚠注意：＊1　ハンドルポスト挿入部には、潤滑剤（浸透性の油）を注油しないでください。固定力が低下してハンドル操作できなくなるおそれがあります。但し錆びによる固着防止のために、挿入部にグリスを薄く塗布するのは可能です。

＊2　樹脂部品や塗装部品に、シンナー・ベンジンなどの有機溶剤やガソリンなどの石油類薬品、酸性・アルカリ性の洗剤などは使用しないでください。変形、変色や、ひび割れ、塗装がはがれることがあります。

保管のしかた

日々の保管のしかた

● **保管に適した場所を選びましょう。**
- 地面が平らで、安定したところ
- 湿気が少なく、風通しの良いところ
- 直射日光を避け、雨ざらしにならないところ



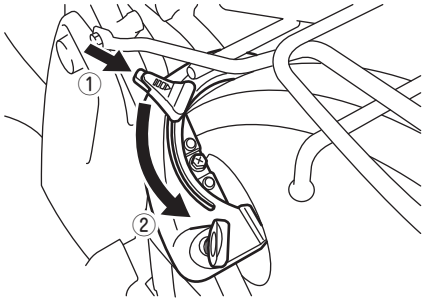
● **保管時はメインスイッチの電源を切りましょう。**

⚠ 注 意

メインスイッチの電源を切り忘れると、バッテリー放電が早まります。
その場合、次回乗車時に電池残量が不足し電動アシストシステムが作動できなくなるおそれがあります。

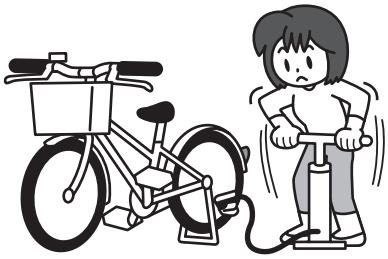
● **後輪錠をかけましょう。**
保管するときは、いたずらや盗難を予防するために必ず後輪錠をかけましょう。（P70）

後輪錠



● **サイクルカバーをかけましょう。**
保管時は、サイクルカバーをかけてほこりなどの異物の付着や水ぬれを防ぎましょう。

● **タイヤに充分な空気を入れましょう。**
保管時は、タイヤがいたむのを避けるために適切な空気圧にしましょう。



保管のしかた

長期間保管するときのバッテリーの取り扱い

1か月以上の長期間電動アシスト自転車に乗車しない場合、バッテリーの保管は以下の点に注意してください。

- バッテリーは車両から取り外し、室温15～25℃・湿気の少ない室内で保管してください。

⚠注 意

バッテリーを車両から取り外しておく場合、車両側バッテリー装着部へのほこりなど異物の付着や、水滴付着による金属端子部の錆防止のため、車両にサイクルカバー（別売り）をかけてください。

- バッテリーの残量は、バッテリー残量ランプが2～3灯点灯している状態で保管してください。
- 時々（1か月に1回）、バッテリーの残量を確認してください。
  バッテリー残量ランプが１灯点滅の場合、一度充電（30分程）してバッテリー残量の著しい低下を防ぎましょう。

要 点

- バッテリー残量が「満充電」または「空」の状態で放置すると、バッテリー早期消耗の原因になります。
- バッテリーは自己放電するので、保管時も少しずつバッテリー残量が低下します。

長期間保管して再使用するとき

1か月以上の長期間保管した後は、必ず使用前日に充電をしてから使用しましょう。（通常より充電に時間がかかる場合があります。）
また6か月以上の保管期間があった場合は、販売店で点検・整備（有料）を受けてから使用してください。

自転車を廃棄するとき

- 自転車を廃棄するときは、廃棄する地区のゴミ分別や回収ルールを守って廃棄してください。
- バッテリーはリサイクル可能な資源です。使用済みバッテリーは販売店にお持ちください。回収しリサイクルします。

ペダルが重い・アシストしない

症状および確認内容	対処方法	ページ
メインスイッチの電源は入っていますか？	電源を入れてください。	46
アシストオフモードになっていませんか？	アシストオフモードの特徴です。アシストは停止しています。 必要に応じて走行モードを切り替えてください。	46
バッテリーは確実に取り付けられていますか？	充電済のバッテリーを確実に取り付けてください。	30
バッテリー残量表示に0（ゼロ）の表示が速い点滅（0.2秒間隔）をしていませんか？	バッテリーの容量が0（ゼロ）です。充電をしてください。	41
タイヤの空気圧が低くありませんか？	自転車用空気入れを使用し、適切な空気圧まで空気を入れてください。	35
メインスイッチの電源を入れてから、5分以上自転車が停止した状態が続いていませんか？	自動電源オフ機能が作動しました。再度、電源を入れなおしてください。	46
走行モードランプが遅い点滅（0.8秒間隔）をしていませんか? 強モードの場合	バッテリー、コントローラー、モーター等の温度保護制御が作動したためであり、故障ではありません。 〈高温状態が想定される場合〉 温度が下がれば回復します。電動アシスト自転車への負荷を軽くし、少し休ませてから再度使用してください。 ⇒通常使用している変速位置よりシフトダウンしてご利用いただくと、症状がでにくくなります。 〈低温状態が想定される場合〉 温度が上がると回復します。また、バッテリーを温度15～25℃の室内で保管しておいて使用すると、この症状を軽くすることができます。	54
メインスイッチが異常表示や異常点滅をしていませんか？	「メインスイッチが異常表示・異常点滅する」をご参照ください。	84
走行中にメインスイッチの表示が全て消灯した。	電動アシストシステム内部のトラブルが考えられます。ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。	–
【電源ボタン】を押しても電源が入らない。		
バッテリー残量表示にSLの表示が3秒間速い点滅（0.2秒間隔）をしていませんか？	スリップ制御機能が作動して瞬間的にアシストを停止したためであり、故障ではありません。	62

走行距離が短い

症状および確認内容	対処方法	ページ
バッテリーは満充電されていますか？	満充電になるまで充電してください。 バッテリーが充分充電できていないと、走行距離が短くなります。ただし、バッテリーが満充電されていてもバッテリー寿命によってバッテリー容量が低下している場合は、走行距離が短くなります。	41
【リミット充電モード】になっていませんか？	異常ではありません。【リミット充電モード】の特徴です。お客様の電動アシスト自転車の使用環境に応じて充電モードを変更してください。	26
タイヤの空気圧は適正ですか？	適正な空気圧になるようにタイヤに空気を充填してください。 タイヤの空気が減っていると、走行抵抗が大きくなり、走行距離が短くなります。	35
重い変速位置ばかりの使用や、坂道での連続使用をしていませんか？	平地、坂道等の走行条件に合った走行モードと変速シフト位置でご利用ください。 高負荷運転となり、バッテリー消費が早くなります。	42、49、50
温度が高いところや低いところで使用していませんか？	気温が適温（15～25℃）になると回復します。真夏や真冬はバッテリー性能が落ちることがあります。 特に冬場は使用される直前まで、バッテリーを室内などの温かい場所に保管されることをお勧めします。	23
車輪はスムーズに回りますか？	乗車前点検を実施し、調整が必要な場合は、お買い上げ販売店にご相談ください。 前後ブレーキが掛かった状態など、車輪がスムーズに回らない場合は、走行抵抗が大きくなり、走行距離が短くなります。	34～38
信号や交差点等、発進、停止を多く繰り返していませんか？	発進時には大きな電力を使用するため、バッテリー消費が早くなります。	－
バッテリーが劣化していませんか？	一充電あたりの走行距離が著しく短くなり、回復する兆しがない、また上記に該当しない場合は、バッテリー交換時期といえます。 バッテリーを交換してください。	23～25
長期使用のお知らせが表示されていませんか？	引き続きお使いいただけますが、一充電あたりの走行距離が著しく短くなり、回復する兆しがない場合は、バッテリーの交換時期と言えます。 バッテリーを交換してください。	24

もしもこんなときは

充電できない

症状・確認項目	対処方法	ページ
電源プラグはコンセントにしっかり差し込まれていますか？また、バッテリーと充電器の接続は確実ですか？	一旦各接続部をはずし、再度接続して充電してください。	31
バッテリー残量ランプ（バッテリー側）は点灯していますか？	一旦各接続部をはずして、再度接続しなおし充電してください。	31
充電ランプ（充電器側）は点灯していますか？		
充電中、充電器のランプが青色点灯し、バッテリーのバッテリー残量ランプが5灯同時点滅する。 充電中　青点滅 待機中/満充電　青点灯 充電エラー　赤点滅 青色に点灯 5灯同時に点滅	この症状は故障ではありません。バッテリー内部温度が高温あるいは低温の場合、充電の待機状態になります。 バッテリー内部の温度が適温になると待機状態が終了し充電を開始します。	32

異音・異臭あるいは煙がでる

症状・確認項目	対処方法	ページ
電動アシストシステム機構から通常発生しない異音や異臭、煙が発生する。	ただちに使用をやめ、メインスイッチの電源を切り、販売店にご相談ください。	–
充電器から異音や異臭、煙が発生する。	ただちに充電をやめ、コンセントから充電器の電源プラグを外し、販売店にご相談ください。	–

充電器が熱い

症状・確認項目	対処方法	ページ
手で触ることが可能なレベル。	充電器は充電中に約40～60℃になります。この程度の熱の発生は故障ではありません。	–
熱くて手で触ることが不可能。	ただちに充電をやめ、コンセントから充電器の電源プラグを外し、販売店にご相談ください。	–

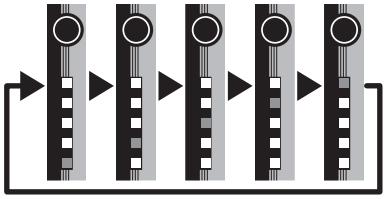
もしもこんなときは

バッテリー残量ランプが表示しない

症状・確認項目	対処方法	ページ
バッテリーのバッテリー残量表示ボタンを押してもバッテリー残量ランプが点灯しない。	新品もしくは長期間保管されたバッテリーは、バッテリーのバッテリー残量表示ボタンを押しても表示しません。充電すると表示します。	–
	充電中に、コンセントから電源プラグが、または充電器からバッテリーが外れた可能性があります。 ⇒一旦各接続部をはずし、温度15～25℃の室内で、再度充電してください。	31
	再度充電してもバッテリー残量ランプが点灯しない場合は、バッテリー残量が空の状態で長期間保管された等の原因で充電ができなくなっている可能性があります。お買い求めの販売店にご相談ください。	78

バッテリー残量ランプが異常表示・異常点滅する

症状および確認内容	対処方法	ページ
バッテリーを充電器に接続後及びバッテリー残量表示ボタンを押した後にバッテリー残量ランプに以下のような表示がでる。	故障ではありません。長期使用のお知らせ機能が作動しています。引き続きお使いいただけますが、一充電あたりの走行距離が短く、アシスト力が弱く感じる場合はバッテリーの交換時期です。 販売店でバッテリーの交換をしてください。	24

表示内容	表示時間
	バッテリー残量表示ボタン 押下後、約3秒
	充電器接続後、約5秒
	バッテリー残量表示ボタン 押下後、約5秒
	充電器接続後、約30秒

バッテリー残量ランプが異常表示・異常点滅する（つづき）

症状および確認内容	対処方法	ページ
【リミット充電モード】にて充電完了後、バッテリー残量表示が著しく少ない。	【リミット充電モード】での充電率はバッテリーの温度、劣化状態により変動します。温度15～25℃の室内で、再度充電してください。 なお、充電環境を変えても回復の兆しがない場合は、バッテリー交換時期です。販売店でバッテリーを交換してください。	26、28
充電完了後、バッテリーのバッテリー残量表示ボタンを押しても5灯全てのバッテリー残量ランプが点灯しない。	【リミット充電モード】に設定されている可能性があります。充電モードを確認してください。 お客様の電動アシスト自転車の使用環境に応じて充電モードを変更することができます。 また、【リミット充電モード】に設定されていなかった場合は、一旦各接続部をはずし、温度15～25℃の室内で、再度充電してください。 ⇒充電中に、コンセントから電源プラグが、または充電器からバッテリーが外れた可能性があります。	26、28、31
バッテリー残量ランプの1灯・5灯が点灯する。 **バッテリー残量ランプの2～4灯が点灯する。**	充電モードの表示・設定変更機能です。 充電器に接続した状態でバッテリー残量表示ボタンを押し続けた場合に、以下のように充電モードを表示します。 バッテリー残量表示ボタンを押していないか確認してください。 充電モード ／ バッテリー残量ランプの表示 通常充電モード：✱□□□✱ リミット充電モード：□✱✱✱□	26

メインスイッチが異常表示・異常点滅する

症状・確認項目	対処方法	ページ
アシストはするがメインスイッチのバッテリー残量表示にE4が点灯している。	車両からバッテリーを取り外し、バッテリー接続端子の汚れを乾いた布や綿棒で取り除いてください。 その後、再度バッテリーを取り付けてください。 同じ症状が出る場合はご使用を止め、販売店で点検をお受けください。	–
充電したが、メインスイッチのバッテリー残量表示がFLにならない。	【リミット充電モード】に設定されている可能性があります。充電モードを確認してください。 【リミット充電モード】に設定されていなかった場合は、一旦各接続部をはずし、温度15～25℃の室内で、再度充電してください。	26、28、31
メインスイッチのバッテリー残量表示がE1～E3、E5、E6のエラー表示が点灯している。	電動アシストシステム内部のトラブルが考えられます。電源をオフにして再度電源を入れなおしてください。 電源を入れなおしても同じ症状が出る場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。	54

充電中にランプが異常点滅する

症状および確認内容	対処方法	ページ
充電中に充電器の充電ランプが青色点灯し、バッテリーのバッテリー残量ランプの2灯目と4灯目が同時に点滅する。 充電中　青点滅 待機中/満充電　青点灯 充電エラー　赤点滅 青色に点灯 2灯と4灯目が点滅	バッテリーの保護機能が作動中です。 バッテリーが使用できない状態になっていますので、販売店でバッテリーを交換してください。	–

充電中にランプが異常点滅する（つづき）

症状および確認内容	対処方法	ページ
充電中に、充電器の充電ランプが青色点灯し、バッテリーのバッテリー残量ランプが2-4灯目と1-3-5灯目が交互に点滅する。 充電中　青点滅 待機中/満充電　青点灯 充電エラー　赤点滅 青色に点灯 2- 4灯と1-3-5灯が交互に点滅	接続端子の接触不良が考えられます。再度バッテリーを充電器に取り付けてください。	–
充電器の充電ランプが赤色点滅する。 充電中　青点滅 待機中/満充電　青点灯 充電エラー　赤点滅	充電器の端子が短絡していることが考えられます。電源プラグを抜き端子部を清掃してください。それでも直らない場合は、使用を中止しただちに充電器の電源プラグを抜き、販売店で点検をお受けください。	–

オートライトシステムが作動しない

症状および確認内容	対処方法	ページ
メインスイッチの電源は入っていますか？	【電源ボタン】または【モード切替／ライトボタン】を押して電源を入れてください。	52
照度センサーが汚れていませんか？	照度センサー部が汚れていると、周囲の明るさ（照度）を検出しにくくなります。照度センサーについた汚れをふき取ってください。	
照度センサーをカバーなどで覆っていませんか？	照度センサーが周囲の明るさ（照度）を検出できないと、オートライトシステムが正常に作動しません。照度センサーを覆っているもの（カバーなど）を取り除いてください。	
【モード切替／ライトボタン】を長押ししましたか？	故障ではありません。前照灯を手動操作で点灯または消灯させるために【モード切替／ライトボタン】を長押し操作した場合、オートライトシステムは無効になります。 メインスイッチの電源を切り、再度電源を入れることでオートライトシステムを有効にすることができます。	

回復充電機能が作動しない

症状および確認内容	対処方法	ページ
メインスイッチの電源は入っていますか？	【電源ボタン】または【モード切替／ライトボタン】を押して電源を入れてください。	–
バッテリーが満充電になっていませんか？	故障ではありません。 バッテリーが満充電のときは、回復充電は働きません。 また、満充電から少し減った状態では回復充電が弱くなる場合があります。	57～58
温度の高いところや低いところで使用していませんか？	回復充電を受ける容量を残した状態であっても、バッテリーの内部温度が著しく高い若しくは低い場合には、バッテリー保護のため回復充電機能は作動しません。	57～58

ローラーブレーキ（後ブレーキ）

症状および確認内容	対処方法	ページ
ブレーキの効きが異常に強すぎる。（急激に効く）	この状態は内部のグリス切れが考えられますので、販売店でローラーブレーキ専用グリスをグリス穴から補給してください。	–
ブレーキの効きが異常に弱すぎる。		
ブレーキをかけたとき、キーキー不快な音鳴りがする。		

スマートコントロールブレーキ（前ブレーキ）

症状および確認内容	対処方法	ページ
●ブレーキの効きが異常に弱すぎる。		
ブレーキシューが磨耗している。	ブレーキシューの山の残りが1mm以下になっていたら、販売店でシューの交換を行ってください。	–
ワイヤーに異物が引っかかり、屈折している。	異物を取り除いて、ワイヤーの曲がりを取ってください。	–
泥の付着等によりブレーキ本体の作動異常が発生している。	販売店にご相談ください。	–
ワイヤーの作動抵抗が大きい。	ワイヤーの錆や汚れが原因と考えられます。販売店でブレーキワイヤーを交換してください。	–
●ブレーキレバーを操作したときに、レバーが完全に戻らない。		
ワイヤーに異物が引っかかり、屈折している。	異物を取り除いて、ワイヤーの曲がりを取ってください。	–
泥等の付着によりブレーキ本体の作動異常が発生している。	販売店にご相談ください。	–
ワイヤーの作動抵抗が大きい。	ワイヤーの錆や汚れが原因と考えられます。販売店でブレーキワイヤーを交換してください。	–

ソーラーテールライトが点滅しない

症状および確認内容	対処方法	ページ
太陽光を充分に当てても自動点滅しなくなった。	ソーラーテール内蔵の充電池の寿命が考えられます。この充電池は消耗品です。 この充電池はソーラーテール専用品のため、電気店では入手できません。お買い求めの自転車販売店にご相談ください。	64

一発二錠（後輪錠）開錠のとき

症状および確認内容	対処方法	ページ
●ハンドル操作に異常。		
ハンドルの重みがかかってロックが外れない。	ハンドルを回しロックが解除するかを確認してください。	–
後輪錠連動ワイヤ接続部の異常、またはワイヤ屈曲。	一発二錠の使いかた「2.操作方法－開錠方法」を参考にして対応してください。 （解除できない場合や、繰返し起こる場合は、お店にご相談ください）	–
凍結現象によるもの。	一発二錠の使いかた「3.凍結対応」を参考にして対応してください。	–
内部・連動機構の異常。	お店にご相談ください。	–
●ハンドルロックの表示窓が青色表示しない。（赤色が一部見える）		
ハンドルの重みがかかってロックが外れず、赤色が表示される。	ハンドルを回しロックが解除され、表示窓が青色になることを確認してください。	–
後輪錠連動ワイヤ接続部の異常、またはワイヤ屈曲。	一発二錠の使いかた「2.操作方法－開錠方法」を参考にして対応してください。 （解除できない場合や、繰返し起こる場合は、お店にご相談ください）	–
凍結現象によるもの。	一発二錠の使いかた「3.凍結対応」を参考にして対応してください。	–
内部・連動機構の異常。	お店にご相談ください。	–
●後輪錠のツマミが戻らない。		
カンヌキがスポークやタイヤバルブに当たって、戻らない。	カンヌキがスポークやタイヤバルブから離れるように、後車輪をゆっくり回転させ、ツマミが戻ることを確認してください。	–
油がきれて動きが悪くなった。	カンヌキスライド部に注油して、ツマミが戻ることを確認してください。	–
キー操作がされていない。	キーを正しく差込み時計方向に回して、ツマミが戻ることを確認してください。	–

一発二錠（後輪錠）開錠のとき（つづき）

症状および確認内容	対処方法	ページ
●後輪錠のツマミが戻らない。		
後輪錠連動ワイヤ接続部の異常、またはワイヤ屈曲。	一発二錠の使いかた「2.操作方法－開錠方法」を参考にして対応してください。 （解除できない場合や、繰返し起こる場合は、お店にご相談ください）	－
凍結現象によるもの。	一発二錠の使いかた「3.凍結対応」を参考にして対応してください。	－
内部・連動機構の異常。	お店にご相談ください。	－

一発二錠（後輪錠）施錠のとき

症状および確認内容	対処方法	ページ
●ハンドルがロックされない。（表示窓赤色表示）		
ハンドルがロック位置よりズレているため、ロックできない。	ハンドルを回しロックすることを確認してください。	－
内部・連動機構の異常。	お店にご相談ください。	－
●ハンドルロックの表示窓が赤色表示しない。		
内部・連動機構の異常。	お店にご相談ください。	－
●施錠できない。		
カンヌキがスポークやタイヤバルブに当たり、施錠できない。	カンヌキがスポークやタイヤバルブから離れるように、後車輪をゆっくり回転させ、施錠できることを確認してください。	－
セーフティボタンを押していないためツマミを操作できない。	セーフティボタンを押したまま、ツマミを操作して施錠できることを確認してください。	－
凍結現象によるもの。	一発二錠の使いかた「3.凍結対応」を参考にして対応してください。	－
内部・連動機構の異常。	お店にご相談ください。	－

カーボンソリッドドライブ

症状および確認内容	対処方法	ページ
手でクランクを回すと（通常のチェーンや従来のベルト車と比べて）回転が重く感じる	故障ではありません。 カーボンソリッドドライブ特有の現象になります。	—
	ベルトの張りが高い （ベルトのたわみが1.5mmよりも小さい） ⇒販売店にご相談ください。	—
手でクランクを回すと（通常のチェーン車なみに）回転が軽く感じる	ベルトの張りが低い （ベルトのたわみが2.5mmよりも大きい） ⇒販売店にご相談ください。	—
ベルトから異音がする	プーリーの歯面やベルトの歯面が汚れていませんか？ お手入れのしかた「各部のお手入れ」に従って清掃をしてください。 それでも直らない場合は販売店にご相談ください。	74
	自転車をご確認いただき、下記の状態の場合は販売店にご相談ください。 • 後輪が傾いている • ベルトが摩耗している • フロントプーリーが摩耗している • リアプーリーが摩耗している	—
ベルトの歯飛びがおきる（坂道走行やスタート時にベルトより「バチッ」と音がする現象）	自転車をご確認いただき、下記の状態の場合は販売店にご相談ください。 • ベルトの張りが弱い • ベルトに歯欠けが生じている （歯元クラックや歯のせん断） • フロントプーリーが摩耗している • リアプーリーが摩耗している	—

定期点検／普通自転車点検整備済みTSマーク

定期点検

電動アシスト自転車の点検･整備は販売店で、自転車安全整備士･自転車技士（自転車組立整備士）、またはそれと同等の技能を有する者により受けてください。

●初回（2ヶ月または100km走行後）点検
お買い上げいただいた電動アシスト自転車は工場で厳密な検査を施した後に出荷されていますが、まれに使用後1～2ヶ月の間に、ボルトなどにゆるみが生じることがあります。
その為、この期間内に電動アシスト自転車をお買い上げいただいた販売店にて点検・整備を受けるようにしてください（有料）。
販売店での点検・整備の際は、電動アシスト自転車と保証書／点検・整備の記録をお持ちください。
また、使用状況などにより部品の交換が必要な場合は、有料となることがありますので、あらかじめご相談ください。

●定期点検
いつまでも電動アシスト自転車を大切にお乗りいただくために、異常を感じた場合、またはお買い上げいただいてから6ヶ月、12ヶ月、その後は1年経過する毎に販売店で定期点検を受けましょう（有料）。
消耗した部品や、異常箇所をそのままにして電動アシスト自転車をお乗りになると大変危険です。
定期点検をすることで、電動アシスト自転車の優れた性能をより長い間引きだしていただけます。
また、定期点検を実施していない場合には保証の適用をうけられないことがありますので、あらかじめご了承ください。

⚠警 告

- **ブレーキは最も重要な機構のひとつです。乗車前の点検に加え、販売店で定期的に点検を受けるようにしてください。**
- **ブレーキワイヤは消耗品です。異常がなくても2年に1度は交換してください。**

普通自転車点検整備済みTSマークについて（新車には貼付されていません）

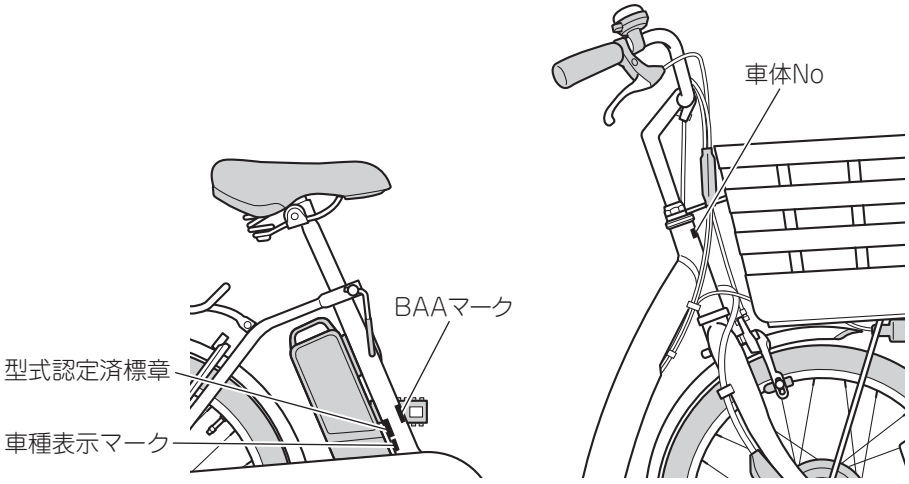
自転車安全整備店でTSマークの貼り付けを依頼して、点検・整備を受け、基準に適合した安全な自転車にこのマークを貼ることができます。（有償です。）
このマークには、傷害保険と賠償責任保険が付帯されており、保険の有効期間中であれば、万一の事故の際に利用することができます。
詳しくは、お買い求めの販売店、または弊社お客様相談室までご相談ください。

保証制度／基準適合標章（TSマーク）

保証制度

ご購入いただいた電動アシスト自転車に採用される純正部品に、不具合（材質または製造上の）が発生した際は、保証書（ロビンフッド手帳）に記載された条件に沿って、無料で対象の部品交換または補修による修理を行います。詳細は保証書をご覧ください。
注)但し、消耗品は除きます。

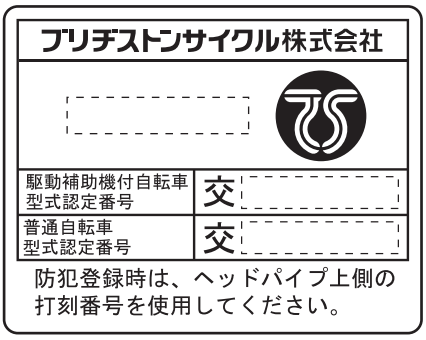
マークの貼付・表示位置



※型式認定標章はバッテリーを外さないと読めません。
※車体No（番号）は、防犯登録する時に使います。
※マークの貼付位置は、お買い求めいただいた自転車により異なる場合があります。

型式認定済標章（新車に貼付してあるTSマーク）

このマークは、道路交通法に定められた規定に適合し、国家公安委員会の認定を受け、型式認定を取得した車両にのみ表示が許されます。このTSマークが貼付された電動アシスト自転車は、安心してご使用いただけます。
注)このTSマークには、保険は付帯しません。

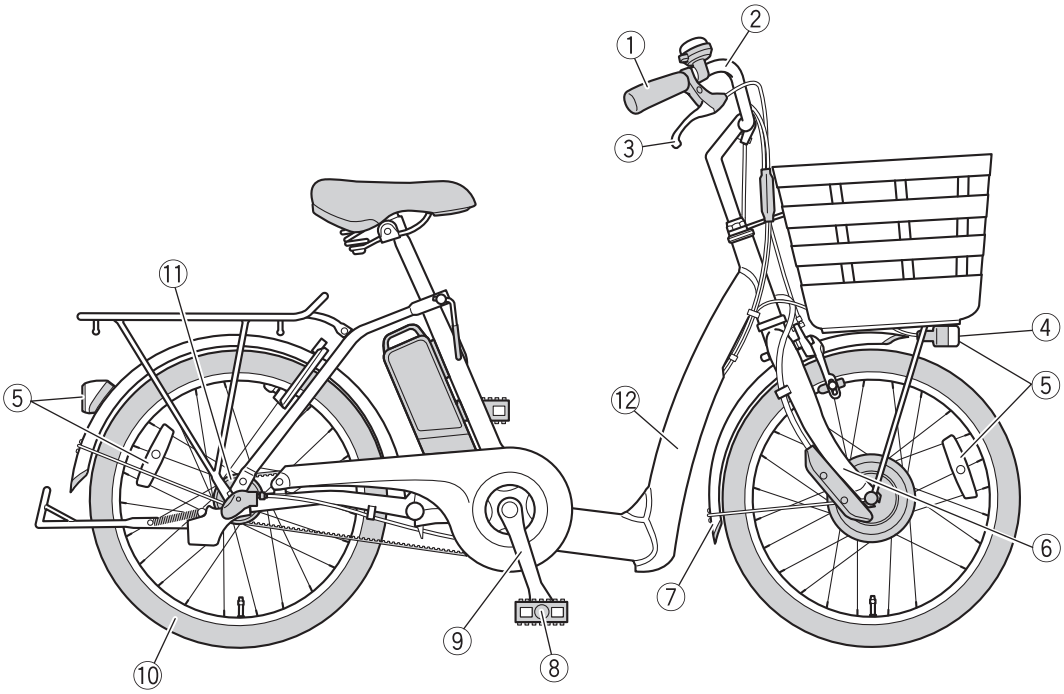


BAAマーク

電動アシスト自転車には「BAAマーク」が貼付されています。

BAAマーク（自転車協会認証）は、「安全で長持ちし、環境に優しい自転車」を目標に、社団法人自転車協会が制定した自転車安全基準に基づく型式検査に合格した自転車にのみ貼付されます。BAAマークが貼付された自転車で、もし製造上の欠陥に起因する事故が起きた場合、製造業者または輸入事業者がその責任を負い、事故の補償をいたします。
注）社団法人自転車協会が直接補償するものではありません。

自転車安全基準の主な内容



① にぎり

水濡れ時でも、にぎりの回転または抜けが発生しないか離脱力を確認します。

② ハンドル

駐輪時の転倒でハンドルが破損しないかを、500mmの高さから質量10kgのおもりをハンドルに落下させ確認します。

③ ブレーキ

ブレーキワイヤを1.5kNで引っ張った時切断しないか、15kgのおもりを10,000回上下させ異常が発生しないかを確認します。

④ **前照灯**

夜間の無灯火走行を防止するために、自動または手元で容易に点灯操作ができる前照灯を備えているか、また適切な明るさが得られているかを確認します。

⑤ **リフレックスリフレクター**

夜間走行時の安全の為、フロントリフレクター、リヤリフレクター、ペダルリフレクターおよびサイドリフレクター(側面２箇所)を備えていること、またフロントリフレクターの夜間100m前方からの反射光視認性を確認します。

⑥ **前ホーク**

前ホークの強度は±440N(非鉄系は±600N)の荷重を100,000回加えて確認します。

⑦ **どろよけ**

前輪用どろよけは、タイヤ接触時に巻き込みが発生しないこと(ドイツDIN規格)を確認します。

⑧ **ペダル**

樹脂製ペダルの強度はDIN規格(ドイツ)に沿って、ペダル体引抜試験と衝撃試験で確認します。

⑨ **ギヤクランク**

ギヤクランクの強度は、1500Nの静荷重試験と1400Nの荷重を合計75,000回加える動的試験で確認します。

⑩ **車輪**

車輪の品質と強度は、縦振れと横振れが1.5mm以内であること、車輪の側方に300Nの荷重を加える静荷重試験、タイヤのリム外れ試験、ハブの回転摩耗試験で確認します。

⑪ **制動性能**

晴天時・雨天時ともに安全な停止・減速を実現するため、DIN規格(ドイツ)に沿って制動性能を確認します。

⑫ **フレーム**

フレームの強度は、JIS規格の耐振性試験とDIN規格(ドイツ)の動的試験で確認します。

○ **ねじ**

低品質のネジを使わないよう、ネジ強度を確認します。

＊1N(ニュートン)＝約0.102kgの力を意味します。
＊DINは、ドイツ規格協会が制定するドイツ連邦共和国の国家規格です。主要部品の強度や耐久性、制動性能、各種表示などに関する規格が定められています。

防犯登録／盗難補償／保険について

防犯登録について

法律により防犯登録は義務づけられています。かならず実施してください。

- **制度の意義**
  防犯登録は「自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律」第12条第3項により自転車を保有する方に義務づけられています。これは、多発する自転車の盗難、さらに盗難自転車が路上に放置された場合など、市民生活に支障を来たす状況を改善することを目的に制定されました。
- **登録のしかた**
  防犯登録は自転車防犯登録所（例えば、お買い上げの販売店など）にて行うことができます。尚、防犯登録は有料です。
- **自転車が盗難にあった場合**
  最寄の警察署に盗難届けを出してください。この時、防犯登録ナンバーが必要になります。防犯登録ナンバーが不明の場合、盗難された自転車が見つかりにくくなります。
  防犯登録カード（お客様控え）は大切に保管してください。

盗難補償について

- **盗難補償を受けるためには、盗難補償書に記載の期日までに、次のいづれかの加入手続きが必要です。**
  ①弊社ホームページから「オンライン登録」で登録する
  ②ロビンフッド手帳に記載のQRコードから携帯電話で「オンライン登録」する
  ③ロビンフッド手帳のブリヂストンサイクル盗難補償カード（ハガキ）に必要事項を記入の上投函する
  ※お買い上げ日欄が未記入であったり、不実の内容を記入された場合には盗難補償は受けられません。
  ※弊社からお客様へ、ブリヂストンサイクル盗難補償カード（ハガキ）受け取り完了のご連絡は差し上げられませんのでご了承ください。
- **上記、加入手続き前に遭われた盗難に関しては、補償が受けられませんのでご注意ください。**
- **詳細は盗難補償書をご覧ください。**

保険について

- **万が一の自転車での事故に備えて、対人対物賠償保険に加入することをおすすめします。
  また、自動車保険等の一部保険では、自転車での事故までをカバーしている場合もありますので、現在加入されている保険がある方は、加入されている保険の内容を確認ください。（なお、弊社では保険の取り扱いはしていません）**

スペアキーについて

スペアキーのご注文は、お買い上げ店にキーNoと車種をご指定の上ご注文ください。

⚠注 意

- ご注文からスペアキーの納品には10日以上かかる場合があります。
- 部品の生産終了や在庫切れにより、対応できなくなる場合もあります。
- スペアキーは元のキーに対してつまみの形状などが異なる場合があります。
- お客様の自転車の車体Noなどから、キーNoを弊社で調べることはできません。
  （弊社には1台ごとのキーNoデータはありません。）
- 紛失する前にキーNoを控えておくことをおすすめします。（裏表紙）
- キーNoがわからないと、スペアキーは注文できません。
- 防犯上の理由からスペアキーの対応ができない場合もあります。
- 自転車のスペアキーは、一般に鍵屋さんでは作れません。

点検・整備の記録

有料 点検・整備項目

V＝異常なし　A＝調整・注油　△＝修理　×＝交換　T＝締付　C＝清掃・その他

	点検項目	初回	6か月	1年	2年	3年	4年	5年
車両本体	車体の長さと幅、フレームと前ホークの外観と取付状態							
	ハンドルの固定、回転とがたつき							
	ブレーキ各部の作動・固定、注油の有無（注油不可の場所は除く）							
	ローラーブレーキの鳴き、振動の有無（1年毎に専用グリスを充てん）							
	ブレーキの効きと各部（シュー、リムなど）の摩耗状態、ブレーキの調整							
	ベルの固定と鳴り具合							
	前照灯の固定と点灯動作							
	前後の車軸の締付とがたつき							
	リムの変形と振れ、スポークの変形・張り具合							
	タイヤの固定、摩耗、損傷、空気圧							
	ペダルとギヤクランクの固定と回転具合							
	フリーホイールの回転と注油の有無							
	ベルトの張りと汚れ、摩耗・クラックの有無							
	変速機の取付と作動							
	ロックキー（後輪錠）の取付状態							
	前後のドロヨケとチェーンケースの取付状態							
	リフレクタ（反射板）の取付と汚れ、損傷（自動点滅ソーラーテールライトは作動を含む）							
	サドルの取付と位置							
	スタンドの取付と機能							
	キャリヤの取付と位置							
	バスケットの取付と位置							
電動アシストシステム機構	電動アシストシステム各部の取付状態と作動							
	配線接続部の外れや損傷							
	モーターやトルクセンサーからの異音							
	カバー等の取付状態							
	充電器の電源コードの異常や損傷							
	メインスイッチとバッテリーのランプ表示							
	バッテリーの取付と固定、バッテリーロックの作動							
	バッテリーの消耗							

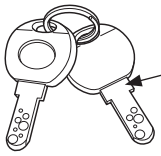
■実施年月日	・　・	・　・	・　・	・　・	・　・	・　・	・　・
■実施者氏名	㊞	㊞	㊞	㊞	㊞	㊞	㊞

お買い上げいただいた電動アシスト自転車の記録

● キーNo ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※スペアキーをご注文する時にはキーNoが必要ですので、お客様が記録しておいてください。

※スペアキーのご注文はお買い上げの販売店へご相談ください。



キーNoはここにあります。

● 防犯登録番号 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※防犯登録票より転記してください。

● 車体 No ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※表示場所は P92 参照。

バッテリーと充電器販売のご案内

- **リチウムイオンバッテリーB200**
  注文番号：P5569（ブラック）
- **リチウムイオンバッテリーB300**
  注文番号：P6005（ブラック）
- **リチウムイオンバッテリーB400**
  注文番号：P6156（ブラック）
- **充電器**
  注文番号：P5568

サービスの実施

点検・修理をはじめ、サービスのご相談など、ご購入いただいたお店にてお受けいたします。

お買い上げいただいた販売店

ブリヂストンサイクル株式会社

〒 362-8520 埼玉県上尾市中妻３丁目１－１

お客様相談室

受付時間：9:00 ～ 19:00（日・祝日、弊社指定休日は休み）

電　　話：0120-72-1911、 FAX：048-772-5316

（国際電話・インターネット電話でのご利用はできません。）

IA01-415

18, G